

平成25年第2回糸魚川市議会定例会会議録 第4号

平成25年3月5日(火曜日)

議事日程第4号

平成25年3月5日(火曜日)

午前10時00分 開議

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

応招議員 26名

出席議員 25名

2番	保坂	悟君	3番	斉木	勇君
4番	渡辺	重雄君	5番	古畑	浩一君
6番	後藤	善和君	7番	田中	立一君
8番	古川	昇君	9番	久保田	長門君
10番	保坂	良一君	11番	中村	実君
12番	大滝	豊君	13番	伊藤	文博君
14番	田原	実君	15番	吉岡	静夫君
16番	池田	達夫君	17番	五十嵐	健一郎君
18番	倉又	稔君	19番	高澤	公君
20番	樋口	英一君	21番	松尾	徹郎君
22番	野本	信行君	23番	斉藤	伸一君
24番	伊井澤	一郎君	25番	鈴木	勢子君
26番	新保	峰孝君			

欠席議員 1名

1番 甲村 聡君

+

説明のため出席した者の職氏名

市	長	米田	徹君	副	市	長	本間	政一君	
総務部	長	金子	裕彦君	市民部	長	吉岡	正史君		
産業部	長	酒井	良尚君	総務課	長	渡辺	辰夫君		
企画財政課	長	斉藤	隆一君	能生事務所	長	久保田	幸利君		
青海事務所	長	木下	耕造君	市民課	長	竹之内	豊君		
環境生活課	長	渡辺	勇君	福祉事務所	長	加藤	美也子君		
健康増進課	長	岩崎	良之君	交流観光課	長	滝川	一夫君		
商工農林水産課	長	斉藤	孝君	建設課	長	串橋	秀樹君		
都市整備課	長	金子	晴彦君	会計管理者	会計課	長	結城	一也君	
ガス水道局	長	小林	忠君	消防	長	小林	強君		
教育	長	竹田	正光君	教育次	長	伊奈	晃君		
教育委員会	こども課	長	吉田	一郎君	教育委員会	教育総務課	長兼務		
教育委員会	文化振興課	長	佐々木	繁雄君	教育委員会	生涯学習課	長		
歴史民俗資料館	長兼務				中央公民館	長兼務			
長者ヶ原考古館	長兼務				市民図書館	長兼務			
					勤労青少年ホーム	館長兼務			
					監査委員	事務局	長	横田	靖彦君

+

+

事務局出席職員

局	長	小林	武夫君	次	長	猪又	功君	
主任	主	査	水島	誠仁君	主	査	大西	学君

午前10時00分 開議

議長（古畑浩一君）

おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

欠席通告議員は、甲村 聡議員であります。

定足数に達しておりますので、直ちに会議を開きます。

日程第1．会議録署名議員の指名

議長（古畑浩一君）

+

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員には、3番、斉木 勇議員、18番、倉又 稔議員を指名いたします。

日程第2．一般質問

議長（古畑浩一君）

日程第2、一般質問を行います。

昨日に引き続き、通告順に発言を許します。

中村 実議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。〔11番 中村 実君登壇〕

11番（中村 実君）

おはようございます。

清生クラブの中村 実です。

それでは、事前に通告いたしました通告書に基づき一般質問を行いますので、よろしくお願いたします。

1、安全安心の防災・減災対策について伺います。

東日本大震災発生から丸2年が経過し、糸魚川市の津波防災対策も進んできたように思います。

市民レベルでも地震が起きたらまず身を守り、その後津波に備え高台に避難をするなど、地震や津波に対する避難行動は理解し対応できるようになってきたと思いますが、本市では津波だけでなく、ほかにも多くの自然災害が考えられます。

そこで以下の点についてお伺いいたします。

- (1) 東日本大震災という大規模な自然災害から、本市で認識した教訓は何か。
- (2) 東日本大震災後、行政や地域住民の地震や津波への取組状況についての評価はどうか。
- (3) 自然災害に対する防災・減災について、市民の安全安心を図るため今後の対応方針はどうなっているのか。

2、柵口温泉権現荘の指定管理の進捗状況と近隣施設について伺います。

赤字経営の続く権現荘を、指定管理者制度に移行し経営の安定化を図るため指定管理者募集要項の作成を進め、指定管理者を選定する予定だと議会及び地域住民は説明を受けていましたが、いまだに詳細な事業説明がありません。

そこで以下の点について伺います。

- (1) 指定管理者募集要項の作成及び選定に向けての進捗状況はどうか。
- (2) 権現荘を指定管理者制度とすることにより、同一敷地内にある施設の取り扱いをどのように考えているのか伺います。
- (3) 上南地区地域プロジェクトモデル事業と権現荘の整合性はあるのか伺います。

以上で1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

おはようございます。

中村議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、自分の命は自分で守ることが基本であり、行政の取り組む防災対策とあわせて、市民一人一人が防災意識を高めていくことが大切だと考えております。

2点目につきましては、自主防災組織の活動や新規の設立がふえてきており、昨年実施した津波を想定した総合防災訓練を踏まえ、地域において自発的な防災の取り組みや、防災、減災に対する市民意識が高まってきてると受けとめております。

3点目につきましては、災害から市民の命を守ることを最優先とした地域防災体制の強化と、公共施設の耐震化に努めてまいります。

また、各地区や各団体の自主防災訓練等への支援、津波避難路の整備や海拔表示、津波避難ビルの指定等に引き続き取り組んでまいります。

2番目の1点目につきましては、指定管理者募集要項案の検討とあわせ、施設改修計画との課題調節を行っているところであります。

2点目につきましては、権現荘で入浴機能の一本化を図り、温泉センターは地域の集会施設としての活用を考えております。

3点目につきましては、上南地区での協議の結果、山菜加工と農家レストランに取り組むということになったものであり、権現荘と商品開発や販売、誘客活動において連携を図れるものと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願ひ申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

ありがとうございました。

今ほどの市長答弁では、自分の命は自分で守るということですが、私もそのとおりだというふうに思っております。やはり自分の命を守ってこそ、他人を救っていくことができる、こんなふうに思っています。そのためには、やはり日ごろからの心がけや、危険箇所を調べておくことも必要でありますし、あわせて自宅の耐震工事を進めていく必要があると思っております。

阪神・淡路大震災でも多くの方が亡くなってしまいましたが、死因は、家の倒壊による圧死や窒息死が多いということでもあります。いかに耐震住宅が地震に有効か、見直されたということでもあります。

糸魚川市では、一般住宅の耐震工事はあまり進んでいないように聞いていますが、現在までの耐震診断は何軒行われ、その後、耐震工事へ進んだのは何軒ほどあるのか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

23年度までの診断ですが、これは18年より実施しておりまして、18年から23年度は97件、耐震診断を行っております。そのうち耐震改修に至ったのは1軒でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

97軒が多いのかどうか、その辺はちょっとわからないんですが、耐震工事が1軒ということは、非常に少ないというふうに思っております。前に伺ったときと、あんまり変わってないのかなというふうに思っていますが、この阪神・淡路の二の舞を踏まないように、今後、耐震工事を進めていく必要があると思いますが、それにはやはり制度をしっかりとしたものにしていかなければいけないというふうに思っています。

今度またありますリフォーム補助金とか、そういうものを活用しながら、耐震工事に特化したような補助制度にすることにより、今以上に、この耐震工事が進んでいくのではないかとこのように思っているんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

これも何回かお答えしたと思いますが、なかなか診断まで行っても、その後の次の段階が耐震設計、それから実際に工事にかかるというところから、なかなか進まないというところで、まずは診断を優先させていただきたいということで、今年度から個人負担というものをなくした中で、いろいろ取り組んでおりますが、実際、この耐震の制度を使って、なかなか改修というのが進まない中で、糸魚川ではリフォーム補助の中では、若干ではありますが、例えば床下を直したり、補強につながるものも見られておりますが、まだまだ即、改修に至らない。いろいろ国、県にも、こういう事情を説明して、もう少し改修に対する補助の手厚さというものも話しているところでございますが、今のところ直結していないということでありますので、こういう中で、もっともっと意見を言う中で、より利用しやすい制度にさせていただきたいという要望も、上げていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

耐震工事ということで、今リフォーム補助金のほうも、また別枠で少し補助制度を上げることによって、また進むのかなというふうにも思いますし、この地震大国日本における最も効果のある地震対策は、建物の耐震補強であると言われておりますが、家全体の耐震工事になると、今ほど言った

ように相当のお金がかかりますが、家の中で長くいる部屋や寝室等を頑丈にすることにより、命も守れ、改築費も安くなるというふうに専門家は言うております。1部屋だけでも耐震にする特別枠のような補助制度も考えていく必要があると思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

その点につきましても、今後の検討課題だと思っておりますし、そういうものに対しても市単独ではなくて、何らかの補助というものを広げてもらうような形も、あわせて考えていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

県の補助制度を利用するというと、なかなかおくれてきますので、市単独でそのようなことも考えていただきたいと思いますし、検討だけではなく、実行に移るようなふうにしていただきたいと思います。

地震のほうも、いつ発生してもおかしくないと言われております東海地震や首都圏直下型地震が、今、大きな社会問題にもなっております。あの大都会で、もし地震が発生した場合、多くの死傷者が出ることは間違いありません。糸魚川市としても現地への応援はもとより、被災者の受け入れも考えていかなければならないというふうに思っていますが、どのような受け入れ対策を考えてられるのか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

おはようございます。

具体的には、きょうの日報にも出ておりましたけれども、柏崎原発の避難の方を糸魚川市で受け入れるというようなことを、3月23日に訓練をするというような内容が出ておりました。

具体的に今検討しているものは、そのような中身でありますけれども、今、ご提言のありました首都直下型の地震が起きたときに、その避難者を受け入れるための準備、心構えというようなものも、防災計画の中で決めていく必要があるのではないかと考えているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

ありがとうございます。

受け入れ場所や受け入れ可能人数、またボランティア、また病院等の連携も必要になってくると
思いますので、よろしく願いいたします。

この地震も、今後30年以内に発生すると言われている地震の確率は、東海地震が87%、そして
首都圏直下型地震が70%だと言われております。糸魚川市でも南相馬市の被災者受け入れの経
験を生かし、避難場所の選定や応援体制など、早急にマニュアル化をしていただきたいというふう
に思っております。

次に、避難訓練について伺います。

地域としては、市の指導を仰ぎながら避難訓練を行ってまいりましたが、訓練も日がたつにつれ
て、忘れられてきているように思います。避難訓練や講演会も定期的に行っていく必要があると思
いますが、ことしの訓練は6月に予定されているというふうに伺っておりますが、前回と同じ訓練
なのか、また地域、内容がわかれば教えていただきたいと思えます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

お答えいたします。

25年度の避難訓練の計画につきましては、現在のところ6月23日の日曜日に予定をしてお
りまして、訓練の中身につきましては、24年度に実施したものにあわせて、今回につきましては、
要援護者をどのような形で避難をするかというようなことを、住民の皆様から考えていただきたい
というようなものが大きなポイントでもありますし、また、市内の福祉施設、医療機関等の連携等
につきましてもご協力をいただく中で、訓練の中で実施をしてみたいというようなことも考えてお
ります。

また、今年度の訓練におきましては、通信回線が正常というような形の中で訓練を行いましたけ
れども、25年度の訓練につきましては、地震による電話回線等が途絶したというような条件の中
で、海岸線を中心といたしまして、本年度と同じような規模で実施をしたいというふうに考えてる
ところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

また前回と違った目線で行うということで、福祉関係は大変必要なことだと思いますので、よ
ろしく願いいたします。

災害の中で一番怖いのは、やはり地震だというふうに私も思っておりますし、地震は、津波や地
すべり、また、雪崩などを誘発してしまいます。今、糸魚川市で考えられる災害としては、地震・
津波、噴火、地すべり、洪水、そして冬には雪崩等があります。津波訓練もやはり必要だと思うん
ですが、各地域に適合した訓練も必要になってくるといふふうに私は思っておりますが、地域に独自
の指導や訓練を今まで行っているのかどうか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

例えばでございますが、早川流域における新潟焼山の火山防災に対する訓練等、今まで実施してきている例がございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

私の住む小泊でも昭和38年3月16日、4人の死者を出す大きな地すべりが発生しました。あと11日で、ちょうど丸50年、半世紀がたつわけですが、私の家もその災害で潰れまして、今でもその様子をはっきりと目に浮かんでくるという状況でありますので、このような惨事が起きないように、きめ細かな指導を行っていただきたいと思います。

今ほど話がありました焼山であります。ことしの1月16日に、第1回新潟焼山火山防災協議会が新潟県災害本部で開催されております。糸魚川市からは大滝消防室長が出席し、避難対象地域や避難判断時期など、技術的な検討や事業計画の説明があったと伺っておりますが、どのような内容だったのかお聞きいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

新潟焼山に対する火山防災対策について、全県を挙げて検討をしようという目的で協議会が設立されたものでございまして、新潟焼山につきましては噴火警戒レベルが、実は1・2・3・4・5というレベルに分かれておりまして、1・2・3までのレベルについての対応は、気象庁からどのようにするということが提示されておりますが、4・5、具体的には避難を準備しなければならない、それから噴火に伴って避難をするというような中身のレベルについては、まだ示されておられません。その4と5の対応について、今後どのようにするかということを決めるために、意見、アドバイスをするというような目的も兼ねて設立されたものでございまして、具体的には、どのような避難をするか、また、噴火が起きそうなときに技術的なというか、学識的な知見の中で、どのようなアドバイスをするかというような中身について、新潟県の地域防災計画、糸魚川市の地域防災計画等に意見を述べたり、アドバイスをするというような中身のものが、活動の中身となっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

私の聞いとるところでは、当面の目標といたしまして早川地区で実践的な避難訓練や、焼山火山防災協議会の事業計画案の策定を行いまして、ことしは警戒区域の設定、それから地域防災計画の

見直しを行い、また、修正や検討を始めるということであります。

この秋から訓練計画を立てて、26年から27年にかけて合同訓練を行うという予定を聞いておりますが、その辺の合同訓練等の具体的な内容がわかっているならば、教えていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

事業計画の中身につきましては、今、議員がおっしゃったような中身になっております。これはあくまでも、まだ計画の段階であります。25年度につきましては、先ほど私が申し上げた中身について具体的な提言をいただくというものが、主な事業計画の中身でございます。

それから、まだ具体的に実施をするということが確定しとるわけではございませんが、計画の中では、具体的な避難計画を踏まえた中で、26年度中に早川流域の新潟焼山の火山を想定した避難訓練を実施するというような計画も、中には盛り込まれているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

当然、これはまだ第1回目ということで事業計画案でありますので、決定事項ではありませんが、多分このまんま進んでいくのだらうなというふうに私も思っております。

その今、検討事項の中には、防災訓練等の活動、防災意識の啓発活動がありますが、先ほども早川地域で訓練があったということですが、防災意識の啓発なども訓練とともにやってきたのか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

合併前の糸魚川市におきましても、新潟焼山の火山を想定した避難訓練が、5年に1回程度実施されている事実がございます。その中身におきまして、学者の方をお招きしてご講演をいただいたり、また、実際に想定した避難訓練を実施をしております。早川流域の、特に上早川地域の皆さんにつきましては、新潟焼山の防災に対する意識は高くなっているというふうに、私は認識しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

早川地域では、そのような活動もあるということなので、警戒区域はもう定められているのかなというふうに思いますが、爆発すると、どうしても早川だけではなくて、両隣の西海や能生地域も警戒区域に入れていかなければいけないというふうに私は思っていたんですが、早川地域にも警戒

区域があるのか、また、西海や能生区域はどうなっているのか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

現在、気象庁が発表しております新潟焼山に関する警戒区域というのは、山頂を中心として半径4キロの周辺の中身でございます。でありますので、実際に早川流域、それから西海流域、能生川流域につきましては、今後、この協議会の検討結果を踏まえて、警戒区域の指定等が課題として上がってくるという考え方であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

ありがとうございます。

今後の活動の中で、警戒区域を早急に決めていただいて、市民にもわかるようにしていただきたいと思います。また、早川のほうはそういう意識がありますが、能生や西海のほうは、あんまりそういうものの意識が薄いと思いますので、訓練のほうもまた折があれば、一緒にしていただきたいなというふうに思っております。

ハード面の防災対策は、国や県の指導や予算の都合で、早急に進めることはできませんが、ソフト面の減災対策は、市の指導や市民の心構え、そして避難訓練などで、いつでもできると思います。県とは別に市単独の対策を策定し、指導や訓練を進んでやっていただきたいと思っておりますし、今ほど申しました火山に関しても、していただきたいというふうに思うんですが、市単独の訓練等は今の津波とは別に、今後考えていく予定はありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

24年度と25年度につきましては津波を想定した訓練が、市の総合防災訓練として取り組むということで臨ましていただいとるわけでございますが、26年度以降につきましては、当然、一般的な風水害の訓練、いろいろな訓練があるわけでございます。そういうようなものを能生地域、糸魚川地域、青海地域というようなバランスもとりながら、市全体で訓練に当たっていきいたいというふうに考えてるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

いろいろな折を見つけて、訓練とか講演等をしていただきたいと思っております。

被害を最小限に抑えるための住宅の耐震工事や橋梁の耐震化、避難路の整備などもあわせて進め

ていかなければならないというふうに思っていますが、市では減災事業として新たに避難路等の整備、そして農林水産業の振興では、農地保全整備事業や基盤整備促進事業など用水路の整備にも予算を盛っておられますが、今後、このような工事を進めることにより、農業の促進にも、減災にもつながってくるのではないかなというふうに思っています。今後、農地の保全はもとより、減災とあわせた地すべり等でありますが、そのような整備事業もあわせてしていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

特に用水の管理につきましては、地元の皆さんが一生懸命になって管理をさせていただいておりますけども、中山間地域、特に高齢化してきますと、なかなか地元の方では無理なところも出てくるであろうと思います。そういうところにつきましては、地元のほうへ入り込んで、どのようなところが問題になっているのかというふうなこともお聞きする中で、特に用水路の維持管理については、しっかり取り組んでいきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

だんだん高齢化が進み、そういう整備もできなくなってくるという状況であります。やはり用水が壊れるとその辺から浸水し、地すべりが発生するということも考えられます。そういうものは、やっぱり地震によって地すべりが起きたりということもありますので、農地の保全にもつながりますので、そういったまた目線で、工事のほうも出していただければなというふうに思っています。

次に、糸魚川市には多くの橋梁があります。新潟県橋梁維持管理計画に基づきまして、社会資本交付金や地域自主戦略交付金などを活用しまして、随時、工事を進めておりますが、予算の都合上、一度にそう進めることもできないというのが現状であります。ただ、地震発生を考えると、早目の対応が必要になってくると思います。現在でも橋梁維持管理計画を作成し、補修工事の順位を決めているんだというふうに私は思っておりますが、どのような優先順位で橋梁の順位を決めているのか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

申橋建設課長。〔建設課長 申橋秀樹君登壇〕

建設課長（申橋秀樹君）

まず、橋梁の補修の優先順位ということでございますけども、傷みぐあいの激しい損傷状況を最優先に考慮しておりますけども、橋梁の重要度といたしまして、跨線橋だとか跨道橋、第三者に被害の可能性がある橋梁、または橋長の長い橋梁、または損傷の要因として交通量の多い橋梁、塩害地域にある橋梁などを考慮しております。また、その橋が災害等で落橋した場合に迂回路がないと

か、集落が孤立するとか、避難所等に行けないなど、住民の生活に支障が出る場合には優先度を高くして決定しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

今ほど建設課長のほうからは、市道にかかります橋梁の答弁をさせていただきましたけども、私のほうからは農道、それから林道にかかります橋梁について、若干ご説明申し上げます。

今回の国の経済対策におけます国土強靱化というメニューの中から、今まで農道、林道の橋梁の点検については、制度化がなされてなかったわけでありまして、今回の経済対策の中に盛り込まれましたことから、今回、調査を実施する予定にしております。

また後ほど、一般会計の補正でご説明をさせていただきますけども、そのような予定をさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

今言われたような順序でやっているというふうに私も理解しておりますが、今ほど課長が申しましたように、集落が孤立するということもやっぱり考えていかなければいけないというふうに思っていますし、例えば市道仙納筒石線にかかっている大谷橋であります、大変古い橋であります。老朽化も進んでおりますが、上のほうから工事は進んできておりますが、まだ橋のかけかえには至っておらないのが現状であります。

この地域は大谷橋を渡るルートと、それから県道の東回りの2ルート、雪が解ければ農道で山のほうへ抜ける道もありますが、そのルートしかありません。県道のほうは地震が起きると、地すべりがあるというような地すべりの多発地点でもありますし、大谷橋が地震で通れなくなったことを考えると、この地域は孤立をしてしまうということになります。今ほど課長が言われたように、やはりこの辺も考慮しながら、今後の計画の中に入れていただきたいというふうに考えておりますので、よろしく願いいたします。

次に、能生インターから高速に乗りますと、大体、能生インターから糸魚川インターまでは十五、六本ぐらいの橋梁がかかっております。特に、あれは上刈あたりですかね、たくさん入り乱れて高い橋がかかっておりますが、これは市が管理する農道や市道だというふうに私は思っておりますが、この市内に高速道路上に何本の橋梁があるのか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

申橋建設課長。〔建設課長 申橋秀樹君登壇〕

建設課長（申橋秀樹君）

北陸自動車道にかかっている橋梁ですけども、市道橋が9橋、農道橋が7橋ということで、合計で16橋かかっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

16本の橋梁がかかっているということですが、この橋梁は市の管理であります、点検は市で行うことができないというふうに思っています。

これはNEXCO東日本に点検を依頼し、また、修繕が必要になっても市で行うわけにはいかず、NEXCOさんに頼まなければならないというふうに思っていますが、中には相当の高さの橋梁もあります。大変大がかりな作業になると思われませんが、それに伴いまして費用も大変多額になるというふうに思います。今現在、この16橋の農道や市道の点検は行ってきたのかどうか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

申橋建設課長。〔建設課長 申橋秀樹君登壇〕

建設課長（申橋秀樹君）

高速道路の橋梁の点検については、昨年12月に市道橋9橋、農道橋7橋ということで実施をいたしました。それでNEXCOといいますか、東日本高速道路株式会社に委託したわけですが、この委託金額は大体2つ合わせて約1,000万円ぐらいでありました。

それから、この橋梁というのは昭和63年にかけられておりました、建設から24年経過しているということでありまして、比較的新しい橋梁で、損傷は少ないだろうと思っておりましたところ、点検結果は損傷があり、性能の低下が懸念されている状態で、何らかの補修が必要だという結果が出ておりました、今後、この詳細点検の結果を踏まえまして、長寿命化の計画に基づきまして、なるべく早い時期に、計画的に修繕をしていかなければならないというふうに考えております。必要に応じて、耐震補強もしていかなければならないと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

高速道路上の橋梁も、もう既に24年ということですね。これは高速が元年に利用できるようななったと思うんですが、25年がもうたつわけですね。ただ、その前にもう既に橋梁がかかっていると思いますので、27年、28年ぐらい、かかっていたのではないかなというふうに思っていますが、今後、どのようなサイクルで、この点検を行っていくのか。また、16カ所で1,000万円も点検費がかかるということでもありますので、この補修工事をもしやるとなれば、内容にもよりますが、どれぐらいの金額を見込んでいるのか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

申橋建設課長。〔建設課長 申橋秀樹君登壇〕

建設課長（申橋秀樹君）

現時点では点検が終了したということで、まだ詳細な設計までは至っておりません。

したがいまして、桁のひび割れとか、コンクリートの浮きだとか、伸縮装置から水が漏水しているとかという損傷が出ておりますので、そういう設計をいたしまして金額を積算しまして、そしてその16橋分、大体幾らになるかというのをはじきたいわけですけども、現在の段階では、まだ出ておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

あれだけ費用のかかるところでありますので、定期的な点検を行っていく必要もあると思いますし、一般の橋梁と違って延命を図るためには相当の、下から眺めたり、上から眺めたりということで、なかなか近くへ寄れません。大変な点検になると思いますが、ただ今後、点検、修繕、最終的には取り壊し、また、橋のかけかえという日が必ず来ると思います。普通の橋梁、またそういうところとは別に、中長期的な財政計画を立てて管理していく必要があると思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

申橋建設課長。〔建設課長 申橋秀樹君登壇〕

建設課長（申橋秀樹君）

橋梁の修繕には、本当に非常に多額のお金がかかりますので、小まめに修繕をいたしまして、少しでも延命化させるという方向をとっていきたいと思います。

それで70年とか100年とかもたないと思いますけども、いずれはそのかけかえの時期が来るということで、極力、施設を延命化したいということで小まめな修繕をやって、少しでも寿命を伸ばしたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

高速の橋梁にしても一般の橋梁にしてもそうですが、少しでも長くもつようにしていただきたいと思えますし、過去に能生川の8号の旧橋が取り壊されました。あの橋が1本なくなることによって、大変困る地域も出てきております。やはりそういうことも考えながら、一日でも長く橋が使えるように、しっかりとした計画を立てていていただきたいというふうに思っています。

次に、トンネルであります。笹子トンネルの天井崩落事故以来、トンネルの点検状況が大きな問題になってきております。糸魚川市も大野の小坂隧道と青海のうわのトンネルの2本があります。

小坂トンネルは昭和39年完成で既に49年が過ぎ、うわのトンネルは昭和52年完成で36年が経過し、平成18年にコンクリート剥離の修繕が終わっていると聞いておりますが、この小坂トンネルの点検はいつ行ったのか。また、うわのトンネルの修繕工事は終わっておりますが、全体の点検は行っているのか。また、その点検簿というのが残っているのか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

申橋建設課長。〔建設課長 申橋秀樹君登壇〕

建設課長（申橋秀樹君）

今、議員申されましたように、市内に市道として管理しているトンネルは2本あります。小坂隧道とうわのトンネルであります。

この点検ですけれども、笹子トンネルの崩落事故を受けまして、国土交通省が高速道路と直轄国道のトンネルの附属物の調査をなささいということで、今やっておるわけですけれども、新潟県のほうでも実施しておりまして、また、県の土木部道路建設課から、市のほうでも市が管理するトンネルについても、一斉点検をなささいという要請が来ております。その結果を踏まえまして、小坂隧道は2月25日、うわのトンネルが2月19日に点検を実施しております。

それと小坂隧道につきましては、トンネル台帳というものはあるわけですけれども、今まで49年経過したわけですけれども、その修復履歴というものは残っておりません。それと点検の結果ですけれども、6メートルピッチ置きに打継ぎ目があるわけですけれども、そこにクラックが入っておりまして、そこから漏水があると。それと鉄筋の露出もあるということで、かなり老朽化が進んでおります。それで今回の調査で、コンクリートの浮き部も発見されておりますので、ハンマーでたたき落としております。

また、うわのトンネルについては、平成18年に大規模なひび割れ補修工事を行っております。比較的、小坂隧道より健全度は高い状態ですけれども、今度、補修した以外の場所でひび割れ、漏水が発生しておりますし、照明器具をとめているアンカーボルトが錆びているというような状況でありますので、施設の延命化と工事費の縮減を図るということで、早急な対応が必要になってきております。

それとうわのトンネルについては、修復履歴はしっかり残っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

林道関係で、トンネルが2カ所ございます。先ほど農道、林道の橋梁のご説明を申し上げましたけれども、それらとあわせまして、今後、追加させていただきます一般会計の補正の中で、経済対策で、その2カ所のトンネルの調査をさせていただき予定としております。

2カ所とも奥地ではありますけれども、今までそのような点検をした経過がございませんので、今回、取り組みをさせていただきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

小坂隧道は、もう既に49年が過ぎているということではありますが、私も行ってみますと大変な漏水が見られている。人間が歩くときには、大げさに言えば傘をささなきゃ通れないぐらいの漏水が、雨の日はあるというふうに思っています。そうなると、内部の鉄筋が相当腐食しているという

ふうには思います。それはやっぱりハンマーで落として点検したぐらいでは、わからないと思いますので、しっかりとした調査を行っていかねばいけないというふうに思っていますが、今後、どのような対策を考えているのか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

申橋建設課長。〔建設課長 申橋秀樹君登壇〕

建設課長（申橋秀樹君）

今回、コンクリート片をハンマーでたたき落としたというのは、応急的なことでありまして、これが恒久的なものではないと思っております。

これからの予定ですけれども、平成25年度で実施する予定になっております道路ストックの総点検というのがありますので、その中で詳細点検、できれば実施設計までやって、なるべく早い時期に修繕工事を実施したいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

小坂トンネルは早急に検査して、修理をしていただきたいと思いますが、いろんなところで点検や修理は行ってきていると思うんですが、職員の中で、そのような細かい点検がわかるような知識を持った職員が、市のほうにいるのかどうか伺いたいと思いますが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

申橋建設課長。〔建設課長 申橋秀樹君登壇〕

建設課長（申橋秀樹君）

資格まで持っているような職員はいませんが、今、橋梁長寿命化修繕計画の委託をしている県の建設技術センター等で研修会があります。それで実地訓練をやって、そしてやり方もマニュアルみたいなのがありますので、それに基づいて教育を受けるという感じでありますので、そういう職員がいるということでもあります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

そのような教育を受けた人たちの点検ぐらいで済めばいいんですけど、もう少し大がかりな点検も要るのかなというふうに思っております。

この点検であります、これは糸魚川市だけではなくて、市区町村の6割が笹子トンネルの事故前に、一度も点検をしてなかったということでもあります。また、点検を行った5割以上の自治体が、記録を残してないということですが、先ほどわのトンネルに関しては点検簿があったということで、よかったなというふうに思っています。

国交省は現在、橋梁や路面といった道路施設に関する点検要綱を初めて作成し、防災安全交付金

を活用して点検や補修を行うということですので、国交省のマニュアルに沿った記録の作成や、そして予算の獲得もお願いしていきたいと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

申橋建設課長。〔建設課長 申橋秀樹君登壇〕

建設課長（申橋秀樹君）

国のほうでも防災安全交付金というのが新たに創設されましたので、今まで以上に、こういう防災面の事業に対して予算がつくと思っておりますので、積極的に要望して、事業の進捗を図っていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

交付金は何か5,500億円ぐらいということで報道されておりますが、ぜひ早目に手を挙げながら、予算をいただくようにしていただきたいと思えますし、糸魚川市単独の点検簿じゃなくて、国交省のマニュアルに沿ったものが新たに出てくるということですので、ぜひその辺を取り入れた点検簿の作成をお願いしたいというふうに思っています。やはり早期の修繕が減災につながるというふうに私も思っていますので、よろしく願いいたします。

最後に、根知小学校の防災教育チャレンジプランについて伺います。

2年連続で、この事業の指定を受け、サプライズ避難訓練や体育館での寝泊まりの避難体験も行いました。その結果が認められまして、内閣府防災教育チャレンジプランの最高賞を受賞したということですが、これは糸魚川市としても大変名誉なことだというふうに私も思っておりますし、子どもたちにも大変よい経験をしたのではないかなというふうに思っております。

来年度は大和川小学校が指定を受けるということですが、「海と向き合う地域防災」をテーマに取り組んでいくということで聞いております。

今回の根知小学校の取り組みをほかの小・中学校にも取り入れ、各学校の地域に合った教育を行っていかねばいけないというふうに思っていますが、課長、どのように考えていらっしゃいますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えします。

議員が今ほどおっしゃられました、防災教育チャレンジプラン2012年度についてでございますが、これまでの取り組みが認められて、防災教育大賞というナンバーワンになれたということは、非常に当市においても、教育委員会においても、また、学校現場、地域においても、今後生きる重要な賞であったなど、そんなふうに捉えておるところであります。

今現在、市内の小・中学校では、幾つかの学校を指定しまして、その地域の防災を前提にした防

災対応についての日常的な学習、そして命を守るための災害に備えた訓練を実施しているところであります。

来年度もそういったものを続けながら、そして根知小学校、それから大和川小学校で来年度実施するものを、さらに全市に広げながら、または地域に広げながら防災の啓発、そして自分の命は自分で守る、そういった事柄をそれぞれの一人一人の中に根差して、生きていけるようにしてまいりたいというふうに考えております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

市長答弁にもありましたが、自分の命は自分で守る、これは素晴らしいことだと思いますし、子どもたちの防災訓練が、今まであまり進んでいなかったですが、やっと始まったなというふうに私も喜んでおります。

私も何度か一般質問で言ってきましたが、いつ、どこで、どのような災害に遭うかわからないということでもあります。学校はもとより、通学路、また自宅周辺、自分たちが遊んでいるところなども含めた危険マップというものを、前にもお話したことがあると思うんですが、そのようなものにも取り組んでいくことによって、子どもみずから何かのときに、避難できるという体制がとれると思います。その避難マップ等のようなものを作成していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えします。

今、議員がおっしゃられるような危険マップというの、非常に重要な事柄であろうかと思えます。今現在もある程度のマップについては、学校でも作成しているところが多いかというふうに把握をしているところでございますが、今後さらに見直しをしながら、充実したものにしていきたいと思えますし、地域との連携、保護者との連携を視野に入れたものになればなど、そんなふうにも思っているところでございます。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

最近、家族のきずなということも盛んに言われております。子どもたちが家族や地域を巻き込んで、このようなマップを作成するということは、素晴らしいことだと思いますので、ぜひ進めていただきたいと思います。

次に、権現荘について伺います。

昨年までの説明を聞いていますと、12月ごろまでに募集要項をまとめ、年度内に募集をかけたというふうに聞いておりましたが、12月中にできなかったということではありますが、なぜできなかったのか。また、募集要項と施設改修案は、いつごろまでにできるのか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田能生事務所長。〔能生事務所長 久保田幸利君登壇〕

能生事務所長（久保田幸利君）

お答えいたします。

今、議員からお話がありましたように、募集要項の早期作成と募集の開始ということで、お話をさせていただいてきましたけども、募集要項と同時といいますが、指定管理の募集に関しましては、施設改修の提案といいますが、応募者から提案をいただきたいということも考えていました。

ただ、その施設改修に関しましては、どうしても市がやらなければ悪いところ。というのは具体的に言いますと、旧上能生小学校であります本館の取り壊し、それから本館の取り壊しに関連してフロント部分の新設、そういうところをどうしても市としてやらなきゃ悪い部分だというふうに整理をしています。

もう一方、指定管理者のほうから提案いただく部分につきましても、その部分を除いてどういう形で提案いただくか、その辺の課題調整、その整理をしている状況の中から、今、話のありました募集要項の決定、それから募集の開始という形にならなかったというのが現状であります。

施設改修につきましては、今、具体的にフロントのイメージ、それから、いかにそこに働く従業員が働きやすいといいますが、従業員動線を改良するには、どういう形のものがいいかということで、具体的な今プランニングを検討している状況であります。その状況を受けた中で、今後の指定募集要項、その辺と整合性を図ってまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

今の話だと市で改修をする部分があるということですが、この改修というのは、市でやる部分は指定管理者が決まる前に、もう工事を始めるということによろしいんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田能生事務所長。〔能生事務所長 久保田幸利君登壇〕

能生事務所長（久保田幸利君）

市の責任でやらなきゃ悪い部分につきましては、指定管理前に工事を終わらせて、指定管理に移行させていただきたいというふうに思います。指定管理後になりますと営業と工事との兼ね合いが、調整が必要になりますので、指定管理に入る前に、工事を終わらせていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

そうなりますと、前に話があったわけでありますが、旧上能生小学校の解体を行って、そっこのほうに入口を設け、新たに日帰り温浴施設をつくるというような話も伺っていたわけですが、その辺は、その中に入っているのか、また後の話なのか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田能生事務所長。〔能生事務所長 久保田幸利君登壇〕

能生事務所長（久保田幸利君）

お答えいたします。

先ほど説明させていただきましたように、従業員動線という部分も今回の改修の中で改善をしたい。今ご存じのように、厨房から廊下を台車で押して食事を運んでいるという状況がありますので、その働く環境の整備といたしますか、従業員が動きやすい動線の確保も検討したいというふうに考えています。その状況でありますので、今現在まだ具体的に、どういうイメージになるかといいますか、ラフな図面もまだできていませんので、その辺の全体を見た中で、改修計画を決めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

まだその辺は、はっきりしてないようではありますが、私も温泉センターの利用客数、資料を見させていただきました。5年間で約1万4,000人ほどが減少している。また、会計を見ても5年で約230万円の赤字で、23年度では700万円以上の赤字があるということでもありますので、今の市の方針どおり、入浴機能は権現荘に一本化していくときがくるのだらうなというふうに思っておりますが、日帰り温浴施設が権現荘にできるまでは、温泉センターは運営していくということによろしいんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田能生事務所長。〔能生事務所長 久保田幸利君登壇〕

能生事務所長（久保田幸利君）

お答えいたします。

今までもお答えさせてもらってきましたように、権現荘の機能が充実できない間は、今あります温泉センターの日帰り入浴機能については一本化できませんので、権現荘の機能の充実ができるまでは、温泉センターとして利用していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

ぜひそのようにお願いしたいと思いますし、また、指定管理者が決まったときに、温泉センターはそのままがいいよということになれば、それもありませんかなというふうに私も思っていますが、市のちょっと方針とは違いますが、それは指定管理者が決めることであると思いますので、よろしくお願いいたします。

次に、上南地区地域プロジェクトモデル事業であります。このプロジェクトは上南地域の11の地区が1つにまとまり、山菜加工や農家レストランに取り組むということで、地域の活性化にもなる事業でありますし、私たち会派でも応援をしているところであります。話を聞きますと、都市交流促進センターの中にある農家キッチン「ひだまり」を閉鎖して、場所を山菜加工場と同じ施設で農家レストランという名前にかえ、新たに開業するというのを伺っております。

このプロジェクトの成功を考えれば、これは当然やむを得ないことだということに理解しておりますが、ただ、今まであった店がなくなることによって、権現荘や他の地域の温泉、また、いろんなところに影響が出てくるというふうに私も思っていますが、市のほうでは今後、都市交流促進センターの利活用をどのように考えていくのか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

久保田能生事務所長。〔能生事務所長 久保田幸利君登壇〕

能生事務所長（久保田幸利君）

上南地区地域づくり協議会では、これまで部会を2つつくっているんですけど、生活部会として20回、それから産業部会として23回、半年の間にこれだけの数の会議を開いてもらって検討をして、今、議員からお話がありましたような方向で、プロジェクトのまとめをしていただきました。

今お話のあったところは産業部会、地域ビジネスとしての部分でありますけれども、そのほかにも生活部会で多くの取り組みを計画しております。具体的には、上南地域の上南ふれあいキャンドル祭りということでイベントの開催を行いまして、多くの皆様から集まっていただき、喜んでいただきました。

質問のありました都市交流促進センターにつきましては、そういう話の経過の中で、今のところから山菜加工施設のほうと一緒にところで営業したいという結論に達しました。その農家キッチン「ひだまり」が出た後の都市交流促進センターの活用につきましては、地元の人、それから関係者の方たちと協議する中で、今と同じような形態での活用ができないかということについて、協議をさせていただきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

このプロジェクトも、もう相当会合もあり進んできたということですが、今のところ能生事務所と企画財政がかかわっているわけですが、今後、商工農林水産課が、これにかかわっていかねばいけないというふうに思っているんですが、その辺の考えはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤企画財政課長。〔企画財政課長 齊藤隆一君登壇〕

企画財政課長（齊藤隆一君）

現在、上南で進めております山菜加工につきましては、まさに1次製品の加工でありますので、事務レベルでは商工農林水産課が事務局となっておりますなりわいネットワークとの連携によって商品開発、さらには市場開拓等についても十分な連携が必要だというふうに考えておまして、今後の活動の中で、さらに連携を深めていきたいというふうに考えています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

今後、商工農林水産課から頑張って、協力していただきたいというふうに思っております。

このこともそうでありますが、新しい指定管理者とよく話をしながら、都市交流促進センターや雪崩資料館、そして温泉センターはもとよりシャルマン、そしてグリーンメッセ、それから近隣の柵口温泉郷のさらなる発展をすることを、指定管理者のほうの要項の中に入れていって、現在の状況も話をしながら、権現荘とあわせて発展するようにお願いをしていただきたいと思います、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

当然、上南地域の中にある施設、資源という形になれば、やはり施設も1つの資源になるわけですので、一体となってその中で利用し、また、活躍してもらわなくちゃいけないと思っておるわけでありまして。これは権現荘だけではなくてスキー場も、また、ゴルフ場も一緒でございますので、いかに皆様方が、その地域の中の資源として活用いただけることが大切かと思っておりますので、行政といたしましても、そういったところではしっかりと連携をとっていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

中村議員。

11番（中村 実君）

ありがとうございます。

新しい体制になっていくわけですが、今ほど雪崩資料館の下にあった店がなくなるということで、大変心配しております。今後、その地域の過疎対策や少子化にも、いい方向でつながっていくようお願いいたします、私の一般質問を終わらせていただきます。

議長（古畑浩一君）

以上で、中村議員の質問が終了いたしました。

暫時休憩といたします。

再開を11時20分といたします。

午前11時06分 休憩

午前11時20分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

引き続き一般質問を行います。

次に、高澤 公議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

高澤議員。〔19番 高澤 公君登壇〕

19番（高澤 公君）

清生クラブの高澤でございます。よろしく申し上げます。

1、糸魚川市の災害対策についてを伺います。

平成23年3月11日の東北地方太平洋沖地震と大津波災害、それに伴う原子力発電所災害は、大変な驚きとともに、人間の力が大自然の前にはいかにひ弱いものであったかを再認識させた重大事件でありました。その爪跡は、地震によるもの、津波によるもの、放射能によるものと多岐にわたり、復旧復興はいまだその緒に就いたばかりであり、放射能災害についてはほとんどエンドレスに近い状態であります。

今後、関東以西の地域においても、大地震、大津波が予想され、また、原子力発電所も多いことから、戦々恐々としてその対策に追われている状態であります。これからは「想定外」という言い訳は通用しなくなります。日本全体が、災害の観念を変えなければならない時と思われま

す。以下、糸魚川市の考えを伺います。

- (1) 糸魚川市地域防災計画は何年に策定したか。
- (2) 防災計画の第1章第4節、災害の履歴は、大自然のサイクルを考える時、もっと古い時代までさかのぼる必要があるのではないか。
- (3) 津波災害の取り扱いが軽いような気がするが、章か節を設けて重く受け止める必要があるのではないか。
- (4) 糸魚川市は災害の多い地域であるが、防災、減災には、どのような方針で臨んでいるか。
- (5) 防災には高額の予算が必要と思われるが、どのように対応する予定か。
- (6) 糸魚川市の他の事業と連携する必要性をどのように考えるか。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

高澤議員のご質問にお答えいたします。

1点目につきましては、平成18年9月に策定し、その後、3回の修正を加えております。

2点目につきましては、災害の歴史についてできる限り情報収集し、地域防災計画へ記載していく必要があると考えております。

3点目につきましては、25年度に地域防災計画の全面的な見直しを予定しており、国、県の計画と整合をとり、津波災害対策編を新規に独立させる予定であります。

4点目につきましては、中村議員のご質問にお答えしたとおり、災害から市民の命を守ることを最優先とした地域防災体制の強化と、公共施設の耐震化に努めてまいります。

5点目につきましては、国、県の補助事業等を最大限活用し、有利な財源の確保に努めてまいります。

6点目につきましては、市が行うハード事業、ソフト事業において、防災、減災の観点を含めた事業展開が必要と考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

高澤議員。

19番（高澤 公君）

ただいま市長の答弁では18年にこの防災計画が策定された、これですよね、策定されたということでもありますけれども、どうも内容を見ておると、18年ではなくて、合併前の広域消防の時代のころのものを引き継いでおるような気がするんですが、そこら辺はどうなっておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

1市2町が合併いたしました。その後、地域防災計画を策定したという経過がございます。

ご指摘のとおり広域事務組合でしょうかね、その当時のものもその中には、読み方によっては含まれているというふうにとられるような内容になっているかと思えます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

高澤議員。

19番（高澤 公君）

読み方によっては、そのように捉えられるということではなくて、ほとんどが私はそうではないかというふうに思いますよ。それで平成17年に合併をした。災害対策基本法では、首長がこれを定めることになっているから、慌てて私はつくったものではないかと思うんですよ。

その証拠に記載の中に、この組織機構の能生事務所、青海事務所、あるいは水道局というものが抜けている場所もあるんですよ。それ消防長、これおくれとるから、その前のやつを使ったからっ

ていって、私、責めてるんじゃないですよ。はっきりちょっと答えてくださいよ。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

先ほど市長の答弁にもありましたが、制定後3回、実は中身を修正しております。

その中身につきましては、国、県の関係機関の名称がかわったりとか、それから糸魚川市の課名、部名につきましてもかわっていたり、また、数値的なものを新しくしたりしております、そのようなものがありまして、過去3回、制定後修正をしております。

高澤議員ご指摘のように、中には見落としているようなものがございまして、過去の名前のものをそのまま使っていたりするような場合もありますので、ご指摘の点につきましても中にあるように思います。今回の見直しの中で、そういう不都合な点につきましては、修正をしてみたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

高澤議員。

19番（高澤 公君）

どうもあんた歯切れ悪いね。使っとるんだったら、使っとるんだってはっきり言ってくださいよ。そうしないとだめでしょう、歯切れの悪い答弁やとったってだめなんだから。

それで問題なのは、これ私たち議員は全員もらいましたよ、もらいました。ただ、あんたインターネットに載っているこの部分、見たことある、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

見たことはございます。それをコピーでとったというか、写真で撮ったようなものの中身が、インターネットの中には載っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

高澤議員。

19番（高澤 公君）

消防長は見たことがあるって言いましたが、総務部長はどうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

ホームページ、インターネットの中にあるものについては、ちょっと私、確認いたしております

ん。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

高澤議員。

19番（高澤 公君）

これ何のためにコピーをとって載せてあるか。いいですか、これ閉じるのにパンチで穴をあけますよね、そこまで全部写とるんですよ。コピーをとってインターネットに載せてある。しかもコピーのとり方が曲がると、それまで全部載せてある。

私、いろいろな市町村の、要するにこの計画書を見ました。糸魚川市ほど何ていうか、お粗末なものではなかったですよ。その点、あんた見たんならどう感じました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

ご指摘のとおり、確かに読みにくい、見にくいというふうに感じました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

高澤議員。

19番（高澤 公君）

だから先ほどから言っているように、これは合併前の広域消防のものを写しとるんですよ。それで保存機能を持った電子ツールはどこかへやってしまった、私はそうだと思うんですよ。多分、そのころならフロッピーで取っとくか、あるいはCDで取っとくか何かの形で保存しとけば、いちいちコピーをとってやらなくてもよかったんだ、そうでしょう。経過としては、そうだと思うんですよ、私。

消防長は途中でかわりましたから、副市長どうですか。あんたずっと最初から総務において、副市長において、災害対策も副本部長をやってきた。そういう立場で見てどうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

市民の皆さんから広く周知をしたり、知っていただくということでのホームページ等、そこに掲載するわけですが、今、指摘がありましたようなことがあってはならないと思っていますので、内容をしっかり点検する中で、わかりやすい形で。また、全部見れということでも、なかなか理解が難しいと思っていますので、そこら辺はしっかり内容を点検しながら、皆さんにわかりやすいように応えてまいりたいというふうに思っております。

議長（古畑浩一君）

副市長、データとして残っているのかという質問なんです。

副市長（本間政一君）

多分、コピーを使ったということであれば、その当初のデータのつくり方のものがなかったから、コピーでとられたんだらうと思ってます。本来なら電子メールなり、いろんな形で保存していたものを、そのまま引用すればできるわけですが、それがコピーだということであれば、やはりその前段のものが多分活用されてないということですので、保存がしてなかったんだらうというふうに理解しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

高澤議員。

19番（高澤 公君）

それで、これのつづりの中には、一番最初に修正をしなさい、修正していいですよ、そういうのが載っとるんですよ。修正をしていきなさいよ。それでさっき消防長は3点修正しましたという答弁をしたんですが、内容の修正もありますけれども、私の言うインターネットに載せたものの修正というのは考えませんでしたか、どうです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

修正につきましては、私になってからは考えませんでした。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

高澤議員。

19番（高澤 公君）

私は何でこれ何年につくりましたかという質問をしたのは、これは何年でもいいんですよ、前の広域消防のものを受け継いだものであってもいいんですよ。ただ、インターネットにそういう形で載せてある。いいですか。載せたときはしょうがないよ、でも保存するツールがどこかへ行ってしまったんだから載せた。どうしてすぐ修正しないのか。曲がってコピーとったものを、そのまま載っとるんですよ。これは糸魚川市の職員の資質が疑われますよ。担当の消防長だけじゃない、皆さん全部。あんた方、みんなこれ見たことないのかな、このインターネットに載っとるのを。ちょっとおかしいんだよって、おかしいんじゃないのって部課長会議で、その話は出ないんですか。どうなんですか、それは。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

私の記憶の限り、そのインターネットに防災計画が載っているのは見づらいよとかという話は、部課長会議では出ておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

高澤議員。

19番（高澤 公君）

多分、部課長会議で出ておれば、直していったらうというふうに思いますし、この件はそれでいいんですが、ただ、こういうものを合併後8年間もほっとくというのは、やはり職員の資質が疑われますね、十分気をつけてもらいたい。

内容に入っていきますけれども、焼山の災害につきましては、あの火山というのは、火山ができてから三千数百年だというふうに言われておって、三千年前からのが載っとるわけですよ。それで一時は、あの火山の火砕流というのは日本海まで達しておるわけだ。これからもどうなっていくかわからない。日本海まで出るような火砕流が発生するかもしれない。そのときにハザードマップに、どういうふうにあなた方は記載しますか。私はいたずらに、危険だよってあおるわけじゃないんですけれども、想定というのは、やはり最大値を想定していかなきゃいけないわけでしょう。どういうふうこれを表現して、マップに載せていく予定ですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

新潟焼山のハザードマップにつきましては過去にも作成し、住民の皆様に配布した記憶がございます。そのときには、やはり最大規模というものを想定したハザードマップではなくて、ある程度の仮定の中に立ったハザードマップを作成し、配布をしてきたという経過がございます。

今ご指摘をいただきましたように、最も大きな災害を想定してハザードマップをつくって配布するべきではないかと、こういうご意見でございます。そういうお考えも、そのとおりだと思っております。やはり我々系魚川市のみでつくるわけではなく、新潟県とか気象庁だとか、いろんな方々からご協力をいただく中でつくってまいりますので、その点を含めて、またご意見をお聞かせいただく中で、対応してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

高澤議員。

19番（高澤 公君）

この焼山の関係については、私はこれ以上は言うつもりはありませんが、ただ、さっきも言ったように、災害というのは最大値をやはり想定して対策を立てていかなきゃいけない。その最大値を想定したときに、マップにどのようにあらわせるのか。市民に対して、いたずらに不安感をあおるようなマップでも困るし、大変難しいところだと思うんですよ。よく考えて、やっていただきたいというふうに思います。

それと地震についても貞観時代、9世紀から非常に細かく載っております。ただ、地震については、今は原子力発電所の下なんていうのは、もう1000年単位じゃないですよ、十万単位で、数十万年単位でやっているようなことになっていますよね。もう少し古いところまで追及していく必要があるんじゃないか。古きを調べて新しきを知るという言葉がありますけれども、そのような形にしていけないと、この地震というのは、なかなか対応しきれんんじゃないかと私は思うんです。

特に、このフォッサマグナのラインというのは、太平洋側のほうから来て佐渡沖のほうへ抜けるわけですね。小谷村から沢口のあたりは空白域なんです。そこら辺でもう少し深く、あるいは古くまでというふうな考え方はないでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

地震に関しては、歴史に学ぶ点が多というふうな認識であります。ご指摘の点は、そのとおりだと思いますので、できる限りいろんな歴史を調べる中で、取り入れられるものは防災計画の中で、記載をしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

高澤議員。

19番（高澤 公君）

貞観時代というのは、新潟県、昔の越後でも、100年間で3回ほど物すごい大きな地震があった時代なんです。日本中が揺れ動いた時代で、そのころからの記録というのは、きちんと取ってあるんだよね。ただ、その前のやつがなかなかない。そこら辺のを調べて、やはりそのサイクルというふうなものを調べていくというのは私は大事なことで、ぜひお願いしたいというふうに思います。

それと、ちょっと話はずれるかもしれませんが、車で走っておったり、いろんなところへ行ってみたりすると、民家があって、そのちょっと上のほうに非常に不安定な山の様相だとか、あるいは岩が出ているとかってところがありますよね。そういうところってというのは、どういうふうにあなた方は指導しているんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

特に、住宅の上が崖になっているだとかいうものの地形があるわけですが、その場合には国土交通省の所管の、例えば崖地近接だとかという、そういう指定にいたしまして、防災対策を施すような法的な対応ができることとなっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

追加で答弁させていただきますが、集落、また住宅の背後地が急峻なところにつきましては、急傾斜地の災害の指定というものを国交省で指定をして、県だったかな、そういう指定というものを各集落や、また市内の中で、そういった位置づけをさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

失礼いたしました。

防災計画の中にも資料としてありましたので、ちょっと読み上げさせていただきますが、土石流危険渓流だとか地すべり危険箇所、急傾斜地崩壊危険箇所、雪崩発生危険箇所、そのような指定がされておりまして、それぞれの法律を所管する省庁が、防災対策を施すような仕組みになっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

高澤議員。

19番（高澤 公君）

土石流渓流だとか急傾斜だとか、そういうのは私もわかっておるんですが、例えば大震災で崩れてきたと、災害に遭った。だけれども、そこで家建ててもいいよと、確認申請出して、いいですよって確認もらって家を建てた。行政の責任じゃないんですかね。どうなるんですか、そういう場合は。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

申橋建設課長。〔建設課長 申橋秀樹君登壇〕

建設課長（申橋秀樹君）

数年前からですけども、そういう区域は土砂災害防止法の中で、土砂災害危険区域、土砂災害危険特別区域というのを指定しておりまして、そういうところで家を建てる場合は規制をしているように、県のほうでそういう区域を設定しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

高澤議員。

19番（高澤 公君）

そういう場所は、ぜひ災害に遭ってからでは遅いんで、災害に遭って亡くなってしまったなんていうことになりや遅いんで、事前にそういう規制があるんだったら、進めていただきたいというふうに思います。

それと、この中で1つわからないところがあるんですが、1つばかりじゃないんだけども代表的なものをもって、第2編第1章第1節、災害の想定というところなんですけれども、地震でもって、中越あるいは上越地方の地震があったときに、糸魚川地域は災害予想が載っとるんですけれども、能生地域とか青海地域はゼロになっとるんだよね。特に上越地方の地震のときには、糸魚川地域に災害予想があって、より近い能生地域はゼロになっとるんですよ。どういう発想で、こういう数字になっとるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

確かに計画書を見ますと、そのような表記がされております。私は今、それを掲載したときの具体的な資料を持ち合わせておりませんので、ちょっと正確にそのことについてはご説明できないので、お許しをいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

高澤議員。

19番（高澤 公君）

これをつくったときの状況がわからないので、答弁できないということなんですが、誰が考えても上越地方に地震があれば、より近い能生のほうが、被害が大きいのは当たり前だと思うんですね。それ能生じゃなくて、糸魚川にあって、青海がない。この状況を今、あんたどう思いますか。これつくったときの状況じゃなくて、今言われてどう思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

これはあくまでも推定のお話になりますが、確かに糸魚川市の数値でいえば、例えば半壊が80件だとかって載っておりますので、能生、青海に確率的にいても全くないということは、やはりおかしいというふうに感じます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

高澤議員。

19番（高澤 公君）

おかしいと思ったら、この一番最初に書いてある修正ですね、これは上位規定ですよ、これは一番最初に書いてあるんだから、ぜひ直すところは直してもらいたいと思います。

次は津波なんです、日本海側というのは、なかなか津波の歴史というのはいないんですね。ないんですが、今盛んに調べてきたら、かなり大きなものが来ている。新潟平野あたりでは10メートルを越すようなものも、来たんではないかというふうに言われてるんですね。そこでもって、この中には津波の欄が非常に細かいんですよ。私の一番最初の説明のように、章か節をつくるというふうな考え方はどうでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

当市の地域防災計画につきましては、東日本大震災を受ける前に策定したものでございます。ご指摘のとおりでありまして、先ほど市長が答弁申しましたように編として独立して、それ専門のやはり対応策を、きちっと書いていく必要があるというふう考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

高澤議員。

19番（高澤 公君）

太平洋側、あるいは北海道のあたりでテレビ報道なんかを見とると、海岸の崖のようなところで盛んに調べてますよね。ああ、これは何年ごろ、これは何年ごろっていう形で調べておりますが、この糸魚川で調べるとしたら、どういう方法が一番いいんですか、どういうふうにして調べるんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

糸魚川の地域でも遺跡発掘というものが行われております。そのような形で、海岸線から山のほうに向かって、ある程度の幅員ですっと細長く発掘調査をし、それで昔、津波があったかどうかというような中身を調査をするというようなことが、考えられると思っております。

それから、先ほどの被害想定との関係でちょっとつけ加えさせていただきますが、今、メモが届きましたのでご報告させていただきますが、平成7年から10年にかけて、新潟県が実施いたしました新潟県地震被害調査結果が、今、我々の地域防災計画に載っておる被害想定というものなのだそうです。それをそのまま転用したものだということになっておりまして、そうは言いましても先ほどご指摘いただいたように、糸魚川地域には数字が載ってるけど、能生地域、青海地域には1件もないというのは、不自然だというふうに感じます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

高澤議員。

19番（高澤 公君）

今、追加で答弁ありましたけれども、国や県のデータが出てきたから載せたというふうな答弁だったんですが、少し勘違いしておりませんか。これは糸魚川がどうするかということなんでしょう、これは、県の指示が来てから動くんじゃないんですよ。そこら辺、わかってないんじゃないかな。これは我々がどうしたら防災になるんだと、減災になるんだということを書いてある、ここに。全然それ答弁になってないんだけど、もう1回、ちょっとやり直してくださいよ。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

ご指摘の点は、そのとおりだと思っております。

ただ、我々は新潟県だとか国のやっぱり学識とか知見というものは、糸魚川市を守るために参考にさせていただく必要があるというふうな認識の中で、お答えをさせていただきました。

ただ当然、糸魚川は糸魚川で考え、判断をし、地域防災計画の策定に当たるべきだというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

高澤議員。

19番（高澤 公君）

それで先ほどの答弁で、もう1つの質問なんですけど、例えば埋文の測量なんかのときには、有効だろうというふうな答弁だったんですけど、今までそういう見方でもって埋文調査のときに津波の調査をしたことがありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

私、かつて文化振興課長をやっておりましたので、そういう観点で発掘調査をしたことはなかったというふうに聞いておりますが、ただ、私とその当時、遺跡調査をした中で、地震の形跡が見れるような、発掘をした結果としてあるのというような質問をしたことに対しましては、なかなかよくわからないといえますか、自分たちが調べた中では、そのようなものが明確に出ているものは見られなかった。また担当者が、そのような観점에서講演をしていただいたこともあります。糸魚川の遺跡の中からは、そのような形跡については、明確に見れるようなものがなかったというような教をいただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

高澤議員。

19番（高澤 公君）

私は今、消防長の言うように、糸魚川市で津波痕跡を調べるということになると、私は海岸に近いところの埋文調査が一番いいだろうというふうに思っております。それで去年やった六反田遺跡、あるいは姫御前遺跡、これ消防長の家の近くだよね。そのときに今、消防長が言うような感覚で見てきましたか、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

先ほどお話のあった遺跡調査の発掘後に、一般参加者が見に行ってもいいということで、私も参加させていただきました。ちょうど大和川の平らな場所ですが、やっぱり姫川の災害が定期的にあったところから、堆積の形が違ってますよということの事例を調査の方が話をされておられました。ただ、地震かどうかは別としましても、糸魚川の中では自然災害、あるいは当然河川の災害で、そこら辺の住宅は、生活してたところは流されて、何年かたつと、またそこで生活して、その繰り返しがよくあったということをお話をされたので、遺跡調査の中でも、いろんなことを調べること

ができるんだろうというふうに認識をしました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

高澤議員。

19番（高澤 公君）

あそこは私も見ましたけども、要するに姫川の災害というよりも、海川の土質でないようなものがまじっている。だから姫川だろうという発想なんだろうけども、海から来たという発想もできるわけですね。やっぱりああいうときは、本格的に調べる必要があるんじゃないかと、私は思います。埋文調査だけではなくて津波の調査も専門家に聞いて、呼んでやる必要があるだろうというふうに思っておりますので、今後またそういう調査があったらぜひそのような観点で、糸魚川の歴史をやっぱり調べなきゃならんと思うので、お願いをしたいというふうに思っております。

日本海側の津波というのは歴史がないんですが、今、専門家に聞いたりなんかすると、日本海の幅というものが太平洋に比べて狭いから、何回も揺り戻しが来るんだよとか、いろんなことを言われる先生がいますんで、よく調べてやっていただきたいというふうに思います。

それで、じゃあまた次いきますけれども、こども課長、これ持ってますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉田こども課長。〔教育委員会こども課長 吉田一郎君登壇〕

教育委員会こども課長（吉田一郎君）

お答えします。

今はちょっと手元に持っておりませんが、戻ればございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

高澤議員。

19番（高澤 公君）

多分、これみんな戻ればあると思うんだよね。ただ、見とるんでなくて積んどくんだよね。「積ん読」という形の読書だと思うけども、この中に何が書いてあるか。あなた方に関係することが書いてあるんだけど、わかりませんか、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

地域防災計画の中には、災害が起きたときにそれぞれの所管課が、そのときにどのような対応をとるかというような中身につきまして、細かく書いてございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

高澤議員。

19番（高澤 公君）

細かく書いてあるんだよね。それで各課で毎年1回、年度当初にそういう教育をなさって書いてある。私、幾つかの課の若手の職員に聞いてみました。おまえたちは、そういう教育を受けたことあるか、ありません、みんなありませんですよ。やってないですよ、あなた方。この中には、年度当初に、きちんとやりなさいって書いてある。やってない。それも職員に個人的にですよ、あんたは地震のときには、災害のときには何をしてくれ、何をなささい、あんたは何をなささいって、そういうことを決めなさいって書いてある。やってないでしょう、あなた方。これはどう思いますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

確かにご指摘の点、そのとおりだと思っております。

ただ、これは言いわけがましく聞こえるかもしれませんが、今冬の対応として、地域防災計画の中でも位置づけされております豪雪対応マニュアルというようなものをことしつくらせていただきました。それにつきましては、昨年度の豪雪を踏まえまして、庁内一丸となってそれぞれの課の中で積雪の前に準備すること、それから積雪があったときに対応すること、それから雪が消えた後、対応すること等について細かく規定をしてございます。

今回、冬を迎えるに当たって庁内全職員に対しまして、その内容についてもつくることから参加をいただいでつくっていただきましたし、またできたものも皆さんのところへお返しをいたしまして、それぞれの課の対応すべき事項については、それぞれ職員からよくご理解をいただく中で、今冬の雪に対する対応をとってまいったところであります。

ただ、ご指摘のように、じゃあ全般的な災害についてそのような対応をとっているかということ、確かにご指摘の点はあるかと思っておりますので、今後、来年度また新しい地域防災計画の大幅な見直し等も計画しておりますので、ご指摘いただいた点につきましては、努めてまいりたいというふうに考えております。

議長（古畑浩一君）

高澤議員の一般質問の途中でありますが、昼食時限のため暫時休憩とし、再開を13時といたします。

午後0時02分 休憩

午後1時00分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

休憩前に引き続き、高澤議員の一般質問を行います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

高澤議員。

19番（高澤 公君）

先ほど消防長は、庁内一丸となって取り組むんだというふうな答弁がございました。この計画書の中には、要するに先ほど言ったように、個々の職員に対して教育をしなきゃいけないということになっておるわけですが、それも年度当初1回ということなんですけれども、やはり私は教育というのが一番大事なんだろうと思っております。

それで市長の答弁では、要するにこの地域で防災、減災というふうなものを考える。あわせて、それは市民の生命、財産を守ることだというふうな答弁がございましたけれども、教育については、要するに今まではやってなかったんでしょう。やってなかったんだけど、今度はしてもらわなきゃいけないし、教育については年度当初1回で足りるというふうな感覚でおられますか、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

この3.11以前と以後というのは、非常に大きくものの考え方が変わってきたかと思っております。大体この訓練を1年に1回やったり、また、そういった1つ指導を受ければ、それでよしとしてきたわけですが、やはり3.11以降は想定外の、そして、いつ何時、何が起きるかわからないという危機意識が非常に高まってまいっております。

そういう中で、我々も今までの職員の体制を見ておりますと中越地震、そしてまたその後には能登沖地震、中越沖地震という3回の経験もありまして、非常にそういった感覚では、危機意識は高まってきておりまして、今までのそういう訓練と、そしてまたそういうときには、非常に今まで我々が目指してきた1つの体制の中で、そのように今動いてきとることは間違いないんですが、ただ、いかんせん、本当にそういった実際の事柄に直面してないんで、やはり一抹の不安は感じておるわけでありまして、これをどのようにして進めていけばいいかというのは、課題だと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

高澤議員。

19番（高澤 公君）

市長が言われるように本当に近い過去に大きな災害が、当市ではなかったけれども、ほんの近辺であったということで、いろんな勉強にはなってきたんだろうというふうに思います。

それで当市は1回も災害がないから、不安な部分もあるというふうなご答弁だったんですが、やはりその不安を解消していくのは、繰り返してやる教育だと私は思うんですよ。しっかりとマニュアルをつくる、こういう災害のときには、こうやって動くんだというものがしっかりとしとれば、私は市長の言われる市民の生命、財産を守るという行動に直接つながっていくだろうと思うんで、ぜひ教育をしていただきたいというふうに思います。

教育長、これは教育なんです、先ほどの中村議員のときにも、こども課長がお答えになっておられましたけれども、今、消防長が庁内一丸となって、そういう部分では防災、減災に努めるというふうな話なんです、庁内と言えいいのか、庁外と言えいいのか、学校、幼稚園、保育園では今までどうでした。それと、これからどういうふうにしなきゃいけないと思いますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

教育長（竹田正光君）

お答えいたします。

一昨年3月11日の地震を境にして、各学校では津波を想定したもの、それから大きな地震を想定した訓練、海岸線と山場はちょっと違いますが、そういう避難訓練を実施しております。学校の場合には、年間3回の避難訓練が義務づけられておりますので、その中で対応していくということです。

それから私たちというか、学校現場での約束事というのは、震度4になった場合には必ず近場にいる管理職と言えいいんでしょう、その管理職が災害の様子を見に行くというような関係で小・中学校は成り立っていますし、保育園のほうは毎月、毎月、避難訓練を行っております。津波に該当するところ、該当しないところそれぞれありますが、そういうことで対応しているということです。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

高澤議員。

19番（高澤 公君）

教育の大事さというのは、前回の大津波のときも1つの学校の生徒が丸々助かった、それは教育のたまものですよ、そうなるんです。だから教育は大事なんです、繰り返しやるのが大事なんです。

今まで伺っていると、ここに書いてある年度当初に1回やりなさいというのは、どこの課でもやってない。大人はやってなくて、子どもにだけやらせるというような状況ですよ、今は。あんた方がやらないと子どもも動かない、そういうつもりでやってください。

津波ばかりじゃないですね。糸魚川というのは、どういう災害が起こってもおかしくないような土地柄ですから、いろんなものを想定して、こういう場合にはこうだよ、こういうときにはこうするんだよ、細かい教育を私は施してもらいたいというふうに思います。

幸い学校、幼稚園、保育所というのは、そう災害に遭うような立地条件のところには建っていないんですけれども、それでもわかりませんもんね、火災でも災害ですし、交通災害ということもありますし、いろんな災害があるんで、子どもたちには繰り返し、繰り返し教育をしていただきたいと思います。

それと先ほどの市長答弁では、防災という部分については非常にお金がかかるだろうという質問に、なるべく有利な資金を調達してやっていくというふうな答弁でしたが、もちろん有利な資金を

調達してやってもらうことも大事だと思いますけれども、何回も言うようですが、私は教育というものが一番大事なんだろうというふうに思います。それは市内の人たちだけでなく、市民に対してもやっぱり教育をしていかなきゃいけない、意識改革をしていってもらわないと、防災にはならない、減災にはならない。そういう部分では、どのようにお考えですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、糸魚川市は、ジオパーク活動に取り組んでおるわけでございまして、ジオパークは大地の仕組みというところを、また学べる部分でございまして、高澤議員がいろいろ今ご指摘の中にもありますように、歴史の中においては、ここの地形というのは非常に目まぐるしく変わってきた歴史があるわけでありまして。そういったところを学びながら、また、過去を学ぶことによって、未来のほうにも推測もできるわけでありまして。そのような中で、学ぶということになっていくんだろうと思いますし、学校の中でも取り組んでおります

その辺が今回、根知小学校が受賞した中にも位置づけられております。要するに自分たちの地域で、どのような災害が起きたのかというのを学びながら、そして地形の中で、ジオパーク学習の中で、どのようなことが推定されるのかというのを頭に置きながら、この防災教育チャレンジプランの審査に挑んだ部分があるわけでございまして、我々もジオパークに取り組む中で、いろいろそういうものを学びながら市民の皆様と、これはもうここにいたら、こういうことが起きて当たり前なんだというような学び方をしていくことが、そういった防災、減災につながるんだろう。そして心の準備にもなるということでは、この減災につながるんだろうということ、どちらかという、災害は起きてもらいたくないという面から、あまり世間にさらさんほうがいいだろうとか、また、あんまりそんなことを言うと、その土地の評価や、また評判にもつながるんじゃないかということで、以前は抑えてきた感があったのじゃなかろうかと思うんですが、ジオパークで、そこらあたりはもっとオープンにさらけ出して、みんなで我々の住んでおるところを、やっぱりしっかりと把握しようということに、このジオパークの中で進めていきたいということで、今進めさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

高澤議員。

19番（高澤 公君）

まさに今、市長がお答えになったとおりだと私も思うんですね。

それで先ほどの話にもありましたように、埋文の調査のときには文化振興課だけがやるんでなくて、消防署あたりと一緒に横の連絡をとり合いながら進めるとか、学校では子どもにきちんとそういうものを教えていくとか。糸魚川っておもしろいんですよ、ジオパークの勉強でも非常におもしろいんですよ。そのおもしろい勉強の中から、やっぱり知識を植えていくというのは大事だって私は思うんですね。

「砥如矢如」の親不知の天険のあの一枚岩、あれは大昔の火山堆積物ですよ。あっこは火山があった、親不知火山帯という火山があった。あるいは、この姫川の本流が、過去に何回もせきとめられてるんですよ。それでせきとめられた、その上流が埋め立てられて、平らになっているというふうなところもありますし、葛葉峠なんかまだ崩れてますよね、埋め立てたもんがね。そういうものもやっぱり教えていかなきゃいけないだろうし、あるいは早川の高谷根から月不見の池のあたりは、どんと落ちてきた地すべりの跡でしょう。そういうものを教えていけば、非常に私はおもしろいと思うんですよ。その中からやっぱり子どもたちに、防災というものを植えつけていかなきゃいけない。ああ、こうなったときに、危ないんだよというものを植えつけていかなきゃいけないと私は思います。

それで消防長にもまたお願いしますが、この防災計画というのは、ここに書くのは、いろんなものを調べた要点筆記ですよ、抜粋ですよ、いろんなものを調べた抜粋ですよ。そのいろんなものを調べた財産というものが、やはり横の連絡で、横断的な連絡で、みんなに受け継いでいかなきゃいけないと私は思うんですよ。消防署だけが、こうやって抱えとったんじゃうまくない。やっぱりそういう動きもしてもらいたいと私は思います。

それと、きょうお話させていただいたのは、防災というのは非常にお金がかかるけれども、やはりそれにはお金をかけないでやるということは人間の教育、意識の改革、そういうものが大事なんじゃないか、大事だろうということですよ。

それと縦割り行政ではなくて、横のつながりをもって防災に努めていくということも私は大事だというふうに思いますし、職員の資質の向上、これもやっぱり大事なことだと思います。いろんな教育を通じて、資質の向上を目指していかなければいけない。

最近とみに、職員のヒューマンエラーで起きてくる事故というのが多いんですよ。考えればわかるでしょう、あれある、これもある、わかるでしょう。そういうものをなくすためにも、やっぱり教育というのが私は大事だというふうに思います。これが、ここに書いてあるものを1回もやってないようなのは、やっぱりヒューマンエラーにつながるもとだろうと私は思っております。

そんなことで、ぜひ少し気分を変えて、気分を高めて、日ごろの業務に励んでいただきたいというふうに思います。それが防災につながる一番の方法だというふうに思いますので、よろしく願いをいたします。

私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

議長（古畑浩一君）

以上で、高澤議員の一般質問が終了いたしました。

次に、新保峰孝議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。〔26番 新保峰孝君登壇〕

26番（新保峰孝君）

日本共産党議員団の新保峰孝でございます。

私は介護施策の充実について、放射能汚泥のセメント処理について、産業振興について、米田市長のお考えを伺いたいと思います。

1、介護施策の充実について。

- (1) 特別養護老人ホームの増設等、施設介護の充実、また在宅介護の充実を図るべきではないか。
- (2) 介護施策の充実及び介護保険料の軽減策について、どのように対応しているか。
- (3) 健康づくり施策をどのように強化しているか。
- (4) 国の2012年度補正予算案から財源確保ができるのではないかと。

2、放射能汚泥のセメント処理について。

- (1) 12月定例会最終日の閉会にあたっての市長挨拶で、会議終了後、上水道汚泥の受け入れに伴う協定を新潟市、長岡市と結ぶとのことでしたが、その後の経過、放射能汚泥の受入状況はどうか。
- (2) 放射能汚泥の測定状況、結果、測定箇所についてはどうか。
- (3) セメント製造プラントでの放射能汚泥処理はやめるべきと考えますが、今後の受け入れ期間、量について、どのように考えているか。また、前処理での除染を行うべきではないか。低レベル放射性物質をどのように捉えているか。
- (4) 原発事故対策の取組状況はどうか。

3、産業振興について。

- (1) 合併後、市内総生産が減り続けております。外的要因、内的要因をどのように考えているか。
- (2) 地域産業の振興を図るには、地域資源を生かし、社会の発展、生活様式の変化等に伴う需要の変化に対応した製品や技術開発、サービスの提供等求められると思いますが、どのように捉え対応しているか。
- (3) 休耕田、森林、再生可能エネルギー、農業、観光等、地域の資源を生かすとともに産業間の連携を図っていく必要があると思いますがいかがか。
- (4) 中小企業等の新製品、新技術開発への支援、起業支援の抜本的強化を図るべきではないか。
- (5) 系魚川市の産業のあり方や産業間連携を産業振興基本条例で示し、中小企業振興条例で支援を強化するなど、条例化することにより地域産業振興に責任を持つ姿勢を明確化する考えはないか。

以上、1回目の質問といたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

新保議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目、施設介護の充実につきましては、介護保険料の負担や今後の高齢者数の推移を踏まえ、慎重に対応してまいりたいと考えております。

また、在宅介護につきましては、高齢者が可能な限り在宅生活を継続できるように、施設の充実に取り組んでまいります。

2点目につきましては、今後、介護が必要となるおそれのある高齢者の把握と、介護予防事業及

び在宅介護支援事業の充実に力を入れており、このようなことが要介護認定者数の増加と、保険料の上昇を抑えるものと考えております。

3点目につきましては、はびねすを拠点とした健康づくりや、各地域での健康体育教室、地区運動教室で取り組んでおります。

4点目につきましては、今回の補正予算では当市で取り組めるものはありません。

2番目の1点目につきましては、鈴木議員のご質問にもお答えしたとおり、昨年12月20日、上水道汚泥処理に関する基本協定の調印を行っており、今年1月9日から市内セメント会社で、上水道汚泥の処理が開始されております。

2点目につきましては、企業周辺38カ所及び搬入車両の空間線量などを継続して調査し、排出元と企業から提出されたデータとあわせて公開しており、通常の値範囲内となっております。

3点目につきましては、排出元での処理が実施されるまでは、市民の安全・安心を確保しながら、受け入れをしまいいりたいと考えております。

また、今回の汚泥は、震災以前から放射性物質として取り扱わないレベルの廃棄物であります。

4点目につきましては、継続して市内の放射線量や食品検査等を行い、速やかに周知することで、市民の安全・安心を確保してまいりたいと考えております。

3番目の1点目につきましては、外的要因としては、平成20年のリーマン・ショックによりGDPや市内総生産が減少し、内的要因としては、それらに伴い雇用と所得の減少に拍車がかかったものと考えております。

2点目につきましては、市内外の異業種交流や農商工連携、産学連携による地域資源を生かした新商品、新サービスの開発を支援しております。

3点目につきましては、今年度発足した系魚川なりわいネットワークの活動を推進してまいります。

4点目につきましては、現在、見本市への出展支援を通じて、新製品、新技術の開発支援を行っております。さらに企業支援室の職員が専門機関と合同で企業訪問し、相談に当たっております。

また、新規創業支援につきましては、商工団体と連携をし、掘り起こしに努めております。

5点目につきましては、今のところ考えておりません。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もごさいますので、よろしくお願ひ申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

特別養護老人ホームの入所希望が、在宅の要介護4・5の方で、95名というお話もありましたが、入所希望の現状はどうなっておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

今のところの情報では、24年7月1日でございますが、在宅で230人、その他のところで370人ほど、合計で600人くらいとなっております。在宅の要介護度4・5の方でございますと、120人となっております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

特別養護老人ホームおおさわの里40床増床の計画については、第5期中の平成26年度からということで、能生国保診療所をつくってから、診療所の残地にかかる部分に増床分をつくる計画がありますが、予定どおり進んでいるのでしょうか。確実に進めていただきたいと思いますが、どうでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

おおさわの里の増床分につきましては、国保診療所ができてから解体工事を進めるというふうに聞いておりますので、今のところは順調に進んでいるものと考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

ぜひ予定どおり進めていただきたいと思います。

第5期の計画の中には、特別養護老人ホーム90床を見込んでおりますが、希望が出されていたクレイドルやけやまの計画というのはどうなっていますか。たしか、そちらのほうも希望があったと思いますけども。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

クレイドルのほうは、5期の計画を立てる段階でご希望をお聞きしておりましたが、その後、いろいろな事情がございまして、なかなか計画どおりに建てられないということをお聞きしております。

また、5期計画を進める中で、介護保険料のかなり高くなったというところで、施設整備につい

ては、今のところは慎重に対応していきたいというふうに考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

クレイドルやけやまのほうの都合は、そちらの法人の都合もありますので、こちらのほうで、どうしてもというふうにはいかない部分もあるかもしれませんが、市民の立場からすると、どうしても欲しいという、そういう要望が強いわけですね。

その家族の中で、どなたか倒れられたと。もうみんな勤めてるという場合に、どうするかといったら、家族の誰かがやめるか、でなければ今ご承知のように、施設を短期間で何とかやりくりしてもらって、動くというふうにはせざるを得ないというふうになっていると思うんですね。

それが先ほど答弁ございました在宅の方で、4・5で120人と言われましたけども、120人が本当に切実で、どうしてもないという方かどうか、もっと厳密に言えばわかりませんが、でも、かなりのこれに近い方が、困っていらっしゃるんでないかなというふうに思います。そういう点から考えれば、今の制度の中では、施設を充実すれば介護保険料が上がるという仕組みにされてますので非常に厳しいんですけど、ぜひそういう市民の声に responding していきたいというふうに思います。

介護の現場は、人手不足という実態もありますので大変なんですけど、ぜひその計画が早期に実現できるように取り組んでいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

市民の方のご希望は、施設入所のほうが多いというふうに思っております。また、待機者の中で在宅の方、4・5の方がどのようなサービスを使っているかというところでございますが、例えばデイサービス、ショートステイを使いながら、在宅で介護をしている方が、たくさんいらっしゃるというふうに思っております。

その介護される側にとりまして、ケアマネがついておりますので、その方が在宅でどのように生活をすれば一番いいのかというところで、ケアプランを立てていただいているというふうに思っております。

また、施設を建てればそれで解消されるのかといいますと、施設ができれば、また待機者がふえるというような現状も出てくるのではないかと考えられます。今は在宅の介護のほうを充実させていくというところで、取り組んでいきたいというふうに考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

今の現状ですね、佐渡市では特別養護老人ホーム、老健施設、そしてグループホーム、この入所待機者の実態調査を行って、その分析をやったということであります。

当市においても今どの程度調査されているかというのは、はっきりわかりませんが、今後の計画に生かすためにも、実態調査というものをきちんと行う必要があるんでないか。本当に切実で、どうしても入所させてもらわないと困るという方もいらっしゃると思うんですね。ですから、そういう入所待機者の実態調査、これを行う必要があるんでないかと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

今、議員がご指摘のとおり、そのとおりであろうというふうに思っております。

また、7月1日現在で、在宅の4・5の方のどんな生活形態、お一人なのか、家族といらっしゃるのかということも調べさせていただきました。その中では、ひとり暮らしの方は近所に家族の方がいらっしゃる場合、それとか家族の方がいらっしゃる中で、入所申し込みをしている方が大変たくさんいらっしゃいました。その中では、ケアマネさんからの実情もお聞きしなければわかりませんが、何とか在宅のほうでやれているのではないかとというふうに考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

この佐渡市の調査項目、全部で五十何ページかあるものですが、結構詳しく調べております。何年ぐらい、どこの施設におられるとかいろいろと細かく調べて、それでどういうふうにするかという、次の対応に生かすということだろうと思うんです。現状を正確に把握するためにも、そういうふうな調査をぜひやっていただきたいというふうに思います。

先ほど出ました介護保険料の軽減策であります。今、糸魚川市の働いている人たちの賃金といいますが、給料といいますが、平成24年度版の統計要覧で糸魚川市の雇用者報酬、もうちょっと幅のあるものですが、平成17年度、898億円が、平成21年度で798億円というふうになってます。5年間で100億円、11%減っております。現在はもっと減ってるんでないかなというふうに思います。

私どもが行ったアンケートでも年金が減らされてきたと、介護保険料は値上げが続いていると、介護保険料も減らしてほしいという、そういう趣旨の声が少なくありません。当市の第5期の介護保険料は、県内20市の中で上越市、新潟市に次いで高いほうから3番目なんですね。こういうふうな市民の声をどういうふうにお聞きになるか、聞かせていただきたいんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

新保議員のほうで、いろんな調査をされたアンケートが、私のところにも届きました。この中を見ますと国民保険料、あるいは介護保険料の負担が大変だ、あるいは年金が少なくなっているので困るというような話が出ております。やっぱりそこら辺はしっかり踏まえる中で、検討していかなくちゃならないと思っておりますが、介護保険なり健康保険なりは、それぞれの利用している方、負担している方の割合、あるいは、それらに伴う費用をどうするかということの制度の仕組みがあるわけですので、そこら辺をしっかりと踏まえる中で、それぞれの協議会をつくったり、あるいは市の中で検討する中で一定の方向を出してるわけですので、そこら辺が実態と負担の差というのは、かなりあるんだろうと思っておりますが、鋭意、そこら辺は縮まるようないろんな工夫が必要なんだろうと思っておりますが、市民からもいろんなところでは努力というか、協力をいただく点も出てくるのかなというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

収入が減る中で、負担がふえている現状を考えれば、上越市、妙高市のように低所得者に対する利用料の独自減免、これが必要なんでないかなと、これを行うべきなんでないかなというふうに思いますが、保険料の軽減とともに、この点についてはいかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

これまでに何回も新保議員に、このことについての質問を受けておりますが、制度の中でしっかり応えたいということでお話をしておりますので、今後もそこら辺を重点の中でしっかり捉えながら、進めてまいりたいという考えであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

低所得者に対する市独自の利用料減免であります。ご承知のように上越市と妙高市は社会福祉法人による負担軽減4分の1に上乗せして、上越市はそれに4分の1をさらに上乗せすると、全ての事業者のサービスを2分の1に軽減すると。妙高市は5分の1を上乗せして、民間事業者の場合は、5分の1を軽減するというふうにしていくということでもあります。

この前の答弁では、まず、制度を知ってもらうことが先だということでもございました。しかし事務報告によれば、社会福祉法人等が行う利用者負担軽減制度、これは決められたものですよ、先ほど答弁あった、そういう内容ですが、この利用者負担軽減制度への助成は、1人分だけとなって

おります。独自助成を上乗せしてこそ、利用もふえるんでないかなというふうに思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

社福減免の関係につきましては、市内の社会福祉法人の方が、全てその利用ができるようになっております。また現在、社福減免の利用をされている方は9名となっております。ですから周知については、周知されているというふうに理解しております。

また、事務報告のほうで出てきている件数につきましては、今後、件数がふえてくるかと思いません。また、これにつきましては、法人のほうから市のほうに申請をしていただいて、それに対してお金をお支払いするような制度でございますので、申請が出てこなければ社会福祉法人のほうで、減免だけをやっているというような実情もございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

利用者負担軽減の金額とすれば、そんなに大きい金額ではないと思うんですよね。ぜひこういう点、検討していただきたいというふうに思います。

2年後の第2期の値上げ幅が5期よりも大きくなると、これはこの前も言いましたように常任委員会で推計で、大まかな試算で予想が出されております。この介護保険料大幅引き上げを避けるためにも、一般会計からの繰り入れを行うべきではないかというふうに考えるんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

先ほども答えたように、制度の中での枠組みの中で捉えていきたいという考えでありますので、一般会計から即入れて全て軽減しようという考えは、今のところ持ち合わせておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

一番のそのもとになっているのは、国の負担割合だと思うんですよね。1割を除いた残りの90%、それぞれ負担割合が決めているということになっていますので、やはり国のほうが残りの4分の1というのは、ちょっと低過ぎるんでないかなと。これは全国の自治体、同じ立場だと

思いますし、過疎、高齢化が進んでいるところほど、一番大変なところほど、介護保険料を上げなきゃいけないという立場に追い込まれるという仕組みになってますので、これは強力にやっぱり国のほうへ求めていって、実現させていく必要があるというふうに思います。

それは議会としても、そういうふうに動いてると思いますし、私どもも、そういうふうにいるとやっております。県の議長会でも、この趣旨の要望が全会一致で採択されておりますし、そういう点で、全国市長会で取り組んでやっておりますという答弁でございましたけども、ぜひ今後いろんなことを通じて、国に働きかけをもっと強めていただきたいと思いますがいま一度お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

最初に新保議員のほうからお答えしたようなことでありますが、やはり市としても、これ以上、高齢化が進む中では、もっともっと伸びるのではないかとということを捉えておりますし、国全体の中でも高齢化が進んでおまして、やっぱり介護保険じゃなくて、社会保険全体の中での負担の話が出ております。

そういう中ではやっぱり年金生活者、あるいはいろんな面で、低所得者の負担がどういうことであるべきかということ、当然考えなきゃならんと思っておりますが、特に当市のように介護保険料が県内でもトップのようなところは、やはり強く市長会、あるいは、いろんな機関を通じて負担の軽減、あるいは国のほうの負担をふやすというような形での運動は、せんきゃならんというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

健康づくりの関係で少し伺いたいんですが、前にも話をさせていただきましたけども、いろいろ市外調査に先進市町村、自治体を伺います。先進的な取り組みをやっているところほど、そこでいろいろ取り組みをやられているところほど皆さん元気で、あんまり寝たきりの方が多いというふうなこともあります。

これは国のほうのホームページにも出ておりますけども、65歳以上の高齢者の有業率、要するに65歳を過ぎていろんな形で働いておられる方、そういう県ほど医療費が少ないと。

長野県、これは30.7%の有業率で医療費が一番少ない。その後に山梨県と福井県とか、新潟県も入ってますけども、続いているんですが、医療費はやっぱり少ないほうになっている。どういう形でもいいから、やはり一定の年齢になっても適度に体を動かす、スポーツのような運動でもいいし、畑のようなものでもいいし、そういう取り組みを皆さんができるような工夫が必要でないかなど。

私は今、免許証の返還というのをやっておりますよね、一定の年齢になったら。そうすると、公共交通だとバスに乗るなり、鉄道に乗るなりということになりますよね。バスに乗って温泉に行くこと

も、健康づくりになるんでないかというふうに思うんですよ。ですから、そういう健康づくりでも、もうちょっと幅を広く捉えて、やっていく必要があるんでないかなというふうに思うんですが、健康といがわ21でいろいろと書いてありますけど、もうちょっと広い視点で捉えられないもんかなというふうに思うんですが、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

市の状況を見ますと、介護保険料、国民健康保険、あるいは後期高齢者の保険と、非常にたくさんの負担になってるわけですので、やっぱり市民一人一人が健康で長生きするというのが、基本だというふうに思ってます。

そんなことから市を挙げて、健康になるにはどういう方法があるか。食事をしたり、運動したり、休養をとったり、このようなバランスのことをしっかり捉えながらいきたいということで、それぞれの担当課長会議等で話すときには、そういうことで全体の中で進めていって、バランスのあることを進める中で健康な糸魚川をつくりたいということで、取り組んでいきたいという考えであります。新保議員のお話は、そのとおりだと思ってます。

先般も長野県が長寿社会の日本一になりましたが、テレビで見た限りでは、やっぱりまち中を歩いて少し行くだけでも健康になるんだとか、食事をちょっと変えただけでもなるんだというような話をテレビで見ましたが、やっぱりそのとおりだと思っていますので、そういうことを市全体の中で取り組んでまいりたいという考えであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

国の本年度の補正で、地域の元気臨時交付金1兆4,000億円ですね。先ほどの答弁で、糸魚川市は関係ありませんというふうな答弁でなかったかと思うんですけども、大いにこれ関係あると思うんですよ。

元気臨時交付金そのものが1つ、それから予定した事業のその財源に元気臨時交付金を充てることができれば、それでまたある程度余裕が出てくる。さらに新年度予算で国庫補助事業を当て込んで、それを乗せておくと。この中には、率が決まっているものはだめだけでも、そうでない、かなり弾力があるんですよ、補正予算債。こういうふうなものも活用すれば、かなり余裕が生み出されるんでないかなというふうに思うんですが、その辺のところは、どういうふうに捉えていらっしゃるのか、聞かせてもらえますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

国の緊急経済対策に伴う関係の市の予算につきましては、明日の一般質問の終了後に提案をさせ

ていただく予定にしております。

まず、1点目のご質問の元気臨時交付金につきましては、24年度補正で計上する事業にも一部充当できるものでありますけれども、本市の場合、今、国の補助事業で、まずは内示を受けるというのが前提で取り組んでおりますので、一部充当する事業は、あすお示しする中で出てまいりますけれども、実質的な元気臨時交付金の糸魚川市が受けるべく金額は、正式には25年度にならないと、国の提示額が示されないという制度の今仕組みになっております。

24年度で執行も可能なんだけど、あくまでもその予算の範囲内、枠の範囲内での執行であれば、一部認めるという言い方でありますので、本市の元気臨時交付金の事業は実質的には25年度に入りまして、タイミングとすれば、早ければ6月の市議会に充当する事業を計上していくというようなスケジュールで、現在は予定しているところであります。

今のご質問の介護施策等への事業の充当についてでありますけれども、冒頭で申し上げた、該当する事業がありませんというのは、現在、手挙げをした中で、介護施策に関する事業はありませんということでありまして、今後、今ご質問の元気臨時交付金を充当する事業については、具体的にはこれからになります。

現在、事務レベルでは、頭出しを進めておるところでありますけれども、皆さんにお示しするのは、もう少し時間がかかるということと、もう1点、元気臨時交付金を充当できる事業というのは、いわゆる対象事業というのも決められておりますけれども、現段階では例えば建設公債、いわゆる建設地方債の充当になる事業というような言い方もしておりますので、ソフト事業に充てられるかどうかという部分については、今の段階ではまだ確認できておりませんので、何でも充当できるという理解ではなくて、一定の要件が満たされる事業に元気臨時交付金を充当していくと、そういうふうな形になるというふうに思いますので、その件につきましては、また改めてお示しをさせていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

また後で聞かせてもらいたいと思います。こちらで充当できて、ある程度余裕ができれば、別なところに、またそれを回すことができるかもしれないということで、また楽しみにしております。

2番目の放射能汚泥の関係ですが、放射能汚泥の受け入れ状況ということで、今、下水道汚泥と上水道汚泥と入ってきてると思うんですけども、昨年度、2011年度、平成23年度、電気化学工業が1万47トンですか、それから明星セメントが3万251トン、上水道は、これまでに1月9日以降421トン、明星セメントが1,265トン、こういうことでこれまでの議員の質問に対して答えられてたと思うんですが、それでよろしいですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

数字については、そのとおりであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

下水道汚泥については、前年度という言い方をされていたと思うんですけども、前年度というと2011年度、平成23年度ということになるんでないかと思うんですが、そうなると平成24年度、その後の分については、どういうふうになってますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

失礼いたしました。4月から入っているのは23年度……ちょっとすみません。

議長（古畑浩一君）

暫時休憩とします。

午後1時55分 休憩

+

午後2時05分 開議

+

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

失礼いたしました。

平成23年度の下水道汚泥の搬入状況につきましては、23年度全体で4万298トンでございます。それから24年度におきましては、下水道汚泥が1月末現在で3万2,033トンでございます。それから上水道汚泥につきましてはお話のとおり、3月1日現在で1,735トンの搬入量となっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

上越環境科学センターで、キルン排ガス中の放射性物質検査が行われた結果が出ておりますけれども、清掃センターと同じく排ガスそのものを採取し、セシウムをベクレルで測定したものでしょ

うか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

これは国が定めた測定マニュアルによって、煙突の手前からバイパスによって引き抜いて、それをろ紙で捕集するというような方法で測定した結果が、検出されないという形でお聞きをしておりますし、公表してるものでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

昨年、電化社が出した資料で、放射性物質を含んだ焼却灰、乾燥下水汚泥、脱水汚泥に加えて、上水道汚泥を1日50トン受け入れたと仮定した推計を出しております。

1日の放射性物質投入量が632万ベクレルで、1キログラム当たり1.6ベクレルになるので、検出限界値以下になるというふうな説明でございました。これはほぼ全量をセメントに混入されるということを前提に、出されたものではないかと思うんですね。明星セメントは約3倍受け入れておりますので、両社で1日1,000万から2,000万ベクレルの放射性物質が、投入されることになるのではないかとこのように思います。放射性セシウムの影響は本当はないのか、安全なのか、いま一度伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

ただいま処理している汚泥というのは、前々からお話してるように、いわゆる100ベクレル以下ということで、原子炉等規制法による放射性物質ではないと言われたものを処理しておるわけでございます。確かに全体量の計算をすると、そのような大きな数値になりますけれども、現在、他地域で行われているセメント会社でも、同じような処理をしておりますけれども、灰ガス中から放射性物質を検出されたという報告は受けておりませんし、また、市内の企業からも、そういう報告は受けておりません。

以上のことから、私どもとしては、危険な状況ではないというふうに判断をしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

いつになったら放射性物資を含む焼却灰、下水汚泥、上水汚泥等を処理しなくなるのか。一旦受け入れたら、際限なくセメント混入が続くのではないかなというふうに思います。放射性セシウムの半減期は30年ですから、なくなるのに約300年かかると言われております。大丈夫なんです

か。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

セメント処理で行う場合、排ガスは当然大気中に放散されます。それからセメント中に取り込まれたものにつきましては、セメント製品として流通してまいります。

おっしゃるようにセシウム137の半減期は、30年というふうに非常に長いわけですが、私ども埋め立てたりして、その場に一定にとどまるものではないということでございます。そういった観点から、今の基準に沿ってやっている分につきましては、危険ではないというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

上水道汚泥の搬出元である新潟市、長岡市では、100ベクレルを超える上水道汚泥、下水道汚泥の量はどうなっているか聞いてますか。この先、どういうふうになるか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

新潟市、長岡市の上水道汚泥の状況についてはお聞きしております。

これについては100ベクレル以上のものについては、新潟市については1万4,111トン保管しておるとのことでございます。また、長岡市についても4,940トンの保管をしておると。

保管状況につきましては、新潟市は8,000ベクレルを超えるものがございますので、これについてはコンクリート製の建物の中に保管をしようと。それから100ベクレルから8,000ベクレルまでのものについては、鉄製パネル等で囲いを敷いて、その上にシートを張って保管をしておると。これについては、100ベクレル以下のものとは分けて保管をしておるとのことでございます。

また、長岡については8,000ベクレルを超えるものはございませんけども、これもトンパックに入れて遮光シートで保管をしておるとのことでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

先月、新潟県内のメーカー、新潟市秋葉区というんですかね、旧新津、そのメーカーが長岡技術科学大学、福島工業高等専門学校と連携して、放射性セシウム吸着剤を開発して、それが採用されたということが報じられておりました。新聞とテレビで紹介されておりましたけども、福島県では、

既に37の除染技術が採用されているということであります。

この新潟県内のメーカーが開発したものは、用排水路の除染に使われるようであります。私は先のことを考えれば、糸魚川市として国に対して求めると同時に、搬出元にも浄水場や浄化センターでの除染、これを働きかけてはどうかなというふうに思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

市民部長（吉岡正史君）

今ほど議員さんがおっしゃるように、大学ではそういう吸着剤といいますか、そういうものも開発しつつあります。しかしながら今現在、各浄水場で発生する汚泥については膨大な量でございます。そういったものを例えば水洗いをして、その水はまた大量に出るわけですから、それを大量に処理するというのは、今まだ現在では現実的ではないわけです。

したがいまして、今100ベクレル以下のものについては、当市のセメント処理というのは、次善の策だというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

糸魚川市に大量の放射性物質が長期間持ち込まれると。これは一般廃棄物と同じだといっても、放射性物質が入っていることには間違いないわけですから、長期間持ち込まれることは、市民の安全・安心を脅かすことにもなるのではないかというふうに思います。放射能汚泥の処理はやめるように、今後とも求めていきたいと思えます。

糸魚川市は柏崎刈羽原発から糸魚川駅まで約80キロ、富山県境まで約100キロであります、柏崎刈羽原発からですね。チェルノブイリ事故の場合、200キロ以上離れたところにもホットスポットができた。風向き次第と、雨が降っているかどうかによってホットスポットができるわけですね。ですから糸魚川市が、糸魚川駅まで80キロ離れているから、国の基準で避難しなくてもいい地域だから、大丈夫なんだということにはならないと思うんです。ちょうどそのときに雨が降ってれば、そこに強い濃度の放射能を含んだ、放射性物質を含んだ雨が降ることにもなるわけですね。当然そういうことも考えて、対策を考えていく必要があるのではないかと思うんですけれども、その辺のところはいかがお考えか、お聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

原発関係の避難対策につきましては、田中議員のご質問にもお答えいたしましたとおり、市町村による検討会議によりまして、それぞれ基本的な考えが3つ示されたというお話をさせていただいたかと思えます。

やはりそれぞれ原発からの距離に応じて、その原則を基本として、それぞれの市町村が最も最良

である避難対策等を検討し、地域防災計画に載っけていく必要があるというふうに考えているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

産業振興について伺います。

市内総生産、先ほども関連のことを言いましたけども、総生産総額が平成17年、2,107億円だったものが、平成21年には1,895億円、200億円、10%落ち込みとなっている。この状況、これは国の経済政策の結果だと、ほぼそういうふうな原因でこうなっているんだというふうには思いますけども、そういう中でもやはり市として、できることは積極的に取り組んでいく必要があるんじゃないかというふうに思います。その際に、やっぱり中小企業ですよ、中小企業が多いわけですから中小企業の振興、それから内発型で地域循環型、この地域にうまく回るような形で、活性化させていくことが大事ではないかというふうに思います。

そういう点で伺いたいと思いますが、いろんな取り組みをやるんですが、新製品、新技術開発といっても、今の状況と合わせたやり方が必要なんではないか。そういう点で長野県の飯田市の取り組み、「ぐりいいんだ」という、そういうことでいろんな製品にそういう名前をつけて、「ぐりいいんだ」認定ということで支援をしてるということでありまして。これは環境配慮型製品を市独自、飯田市独自で認定する制度となっております。

認定の条件は、飯田市内の事業者等が開発または製造した製品であること。それから、もう一つは環境に配慮した製品であること、こういうことになってます。断熱材とか蛍光反射板、ペットボトルの再生ペレット、それから地域の林産資材でつくられた堆肥、オゾン生成装置とか、雨水貯蔵タンクとかいろいろあります。こういう環境と組み合わせた新製品、新技術開発といいますか、こういう考え方も時代に合った、そういうやり方でないかなというふうに思うんですよ。

だからそのとき、そのときのやっぱり形で、同じやるにも取り組んでいったほうが、先につなげていけるんじゃないかというふうに思うんですが、お考えを伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

今、議員お話いただいたとおりだと思っております。

飯田市につきましては、昨年、建設産業常任委員の皆さんと視察をさせていただきました。地域経済活性化プログラムをつくられて、飯田市が自前で、どれだけ自立しているかというふうな自立度まで作りながら、地域経済の発展を毎年PDCAサイクルでつくった計画を見直し進めていく。そのとき、そのときに合った計画を持ち、進めているという状況も見させていただきました。非常に参考になるもんだなと思っております。社会的な変化を捉えながら解決策を見つけるには、やはり新商品、新サービスというものを捉えて、産業に取り組んでいただくものだと思っております。

ちなみに市内でも1社が、昨年、中国の見本市に出られたということで、その見本市への補助金も出したわけでありますけども、そのような企業も市内にはございますので、ご相談を受け、また、私どものほうから情報を取りにいきながら、支援してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

こういうふうな開発したものの、製品等認定を受けますと、製品とかチラシ等に、環境文化都市飯田の認定品であることを掲載することができる、シンボルマークを使ってPRすることもできるということだそうであります。飯田市としては、展示会とか広報活動とか認定品のPRを行って、公共事業等において積極的に活用するとのことでもあります。支援は5年間ということではありますが、やっぱりこういうふうな支援のあり方についても、参考になるんでないかなというふうに思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

昨年、糸魚川なりわいネットワーク事業を立ち上げをさせていただきました。市内では個人も含めまして45団体、今加盟をいただいております。また、既に糸魚川商工会議所にご参りました異業種のimaonのチームの皆さんも、なりわいネットワークにご加入いただいて、今活動していただいております。

そういう意味では、産業間を越えてネットワークをつくり、また、そこでのいろんな意見交換をし、情報を共有するという器ができたのかなというふうに考えております。そういうところで皆さんのご意見、また課題等を聞く中で、取り組んでいきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

いま1つ、これも飯田市ですが、株式会社南信州観光公社、以前にも言わせてもらったことがあるんですが、出資者は、この南信州の15自治体、またはその町村の法人、農協、新聞社、商工会議所、銀行ほか企業となっておりますけども、取り組みの内容はワーキングホリデーというふうな、例えば体験農業とか体験型のそういうプログラムなんです。

一番私が大事だと思ったのは、やっぱり中心になる人が本当にそれに打ち込んで、ここまで伸ばしてきたということではないかなと思うんですね、最初に軌道に乗せるまでの間。そういう点では、やはり糸魚川市も、必要な場合もあるんですが、ある程度年数をその部門、本当に必要なところは、ある程度の年数をその人に任せて長くやってもらおうと。そういうことは、どうしても必要でないかなと思うんですよ。ぜひそういうことも考えていただきたいと思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今ご指摘の公社ということのご提案なんです、これはそれだけではなくて地域振興とか、今まちづくり、また村おこし、いろいろあると思うんですが、やはりリーダーの資質というのが、一番やはり問われるところございまして、議員のご指摘のところは、どんな事業にも、またどんな活動にも、やはりそこが一番大事であるわけございまして、そこが私は一番大事なんで、その辺を探すこと、また、その人に立ち上がってもらうことが一番大事だと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

新保議員。

26番（新保峰孝君）

適材適所で、そこに行っているんなところと話をつけることができると、そういう人材をぜひ活用していただきたいと思います。

これで私の一般質問を終わります。

議長（古畑浩一君）

以上で、新保議員の質問が終了いたしました。

暫時休憩いたします。

再開を2時40分といたします。

+

+

午後2時26分 休憩

午後2時40分 開議

議長（古畑浩一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

引き続き一般質問を行います。

次に、五十嵐健一郎議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。〔17番 五十嵐健一郎君登壇〕

17番（五十嵐健一郎君）

奴奈川クラブの五十嵐健一郎です。

通告書に基づき一般質問をさせていただきますので、前向きな将来につながる答弁をよろしくお願いたします。

1、新幹線時代に対応したまちづくりと新たな産業振興策について伺います。

開業を2年後に控え後期基本計画では、地域の産業や観光などの経済活動を、新たな地域間の交流活動が活発化するものと期待されることから、開業の効果と享受するため交流人口の拡大、にぎわいの創出などの取り組みの充実を図る必要があるとされていきました。

そこで以下の項目によりお伺いします。

- (1) 関東・関西・中京圏等との連携及び対応策について。
- (2) 並行在来線等の支援策について。
- (3) エネルギービジョン策定事業及び新エネルギー導入支援について。
- (4) 糸魚川ブランド認証制度の取り組みについて。
- (5) 加工・販売支援の方策について。
- (6) 都市部との連携による高齢者福祉施設のモデル化等の情報収集及び今後の取り組みについて。
- (7) 屋根雪除雪等費用助成事業について。

2、明日を担うひとづくりについて伺います。

- (1) 特別支援教育について。
市立化に向けての協議経過と類似する他市の取組状況について。
建設費・運営費の財政負担と今後の方向性について。
ライフステージにおける発達支援について。
- (2) 公園施設長寿化計画の策定について。
- (3) 美山球場及び能生球場の今後の整備・改修について。
- (4) 今井小学校跡地利用について。

以上で、1回目の質問とさせていただきます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

五十嵐議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、新幹線開業によるビジネスチャンスと経済活動の範囲が広がることから、三大都市圏等への情報発信と観光誘客に努めてまいります。

2点目につきましては、沿線3市で7億6,000万円を出資するとともに、県は安定経営に向けて30年間で約40億円を支援する案を示しております。

3点目につきましては、25年度に策定する予定であり、その中で導入支援を検討してまいりたいと考えております。

4点目につきましては、県や他の自治体、企業の効果を見ながら、取り組みを検討してまいりたいと考えております。

5点目につきましては、糸魚川なりわいネットワークを活用することにより支援してまいります。

6点目につきましては、新たな情報は入っておりませんが、引き続き情報収集に努めてまいります。

7点目につきましては、自力での除雪等が困難な高齢者世帯等が、屋根雪除雪や雪踏みを実施し

た際、その経費の一部を補助する制度であります。

2番目の明日を担うひとつづくりのご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしく願いいたします。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もございますので、よろしく願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

教育長（竹田正光君）

五十嵐議員のご質問にお答えいたします。

2番目の1点目の1つ目、経過につきましては、糸魚川小学校の改築とあわせて、県によるひすいの里分校の整備を要望してまいりました。しかし県は、平成17年4月に、小中学部を糸魚川小学校に新設したものであり、新たな施設を整備することは財政面及び他市とのバランスからも困難との見解から、小中学部は市立で、高等部は県立で、それぞれ整備することになったものであります。

また、他市の取り組み状況につきましては、十日町市では当市と同様の経過であります。

2つ目の建設費は、約3億2,500万円で、内訳は国庫負担金が1億5,600万円、地方債が1億5,900万円、一般財源が1,000万円であります。運営費は毎年ベースで約1,100万円で、ほぼ全額が交付税措置されます。

3つ目につきましては、子ども一貫教育において社会的自立を目指した途切れない支援を目標に、各発達段階に応じたさまざまな支援を実施しております。

2点目につきましては、24年度からの2カ年で、公園施設長寿命化計画の策定に取り組んでおります。

3点目につきましては、今後も両球場の適正な維持管理のための修繕を行ってまいります。

4点目、グラウンドにつきましては、今井運動広場として利用し、校舎につきましては、ジオパーク学習、研修の場と、糸魚川職業訓練校の移転先などとして考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ありがとうございました。

関東・関西・中京圏、三大圏、新ビジネスを含めて、いろいろな形で取り組んでいかなければならない。それでこの前、泉田県知事が来たときに、県では大阪事務所を強化していきたいということだったんですが、糸魚川市の職員は派遣するつもりはあるんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

県のほうでは、大阪事務所の人間の体制を充実するというようなことでのお話がございました。当市においては現時点におきまして、県の大阪事務所の体制の中に人間を派遣するという事は、予定はいたしておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

やっぱり必要だと思うんですね。首都圏、今、東京事務所に糸魚川市職員を派遣しておりますが、上越市も派遣するという事も含めて、新潟の他市からも大阪事務所に行かれるということなんです。いろいろな面で、2年後に新幹線が来るということなんで、ぜひやっぱりこの辺を含めて、県知事がああいうふうに言われてる。糸魚川はやっぱりポイントだと思うんですね、上越に負けますよ。観光面、経済面、いろいろな形で今予算をつけておられますが、糸魚川としては、市長、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

県の今設置をしようというものにはできませんが、糸魚川独自で今考えていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

そのめどは、どのぐらいなのか。やっぱり本当に独自でやっていただきたいことですよ。2年後を考えればいろいろな面で、そういうめどはどんなもんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、県が設置する中において、糸魚川に対してどういうものが活動できるか、また、誘致なりいろんなものができるかという、甚だ少し、糸魚川というものは、なかなかその中では出せないんじゃないかというのを感じます。そうしますと、やはり糸魚川は糸魚川に大勢おいでいただいたり、また、いろんな活動というものを考えていかなければいけないということになります。

それともう一つは、糸魚川の今この状況の中で、財政的にも厳しい面がある。そういうことを考

えた中で財政、そしてまた活動、そういう中でやれる体制は何があるかというものも含めまして、検討させていただきたいということで、これはもう早急に検討に入っていかなければいけないと思っております。そういったことで、今、県の中には、ちょっと財政的に厳しくて入っていけないという感覚でお答えさせていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ独自で、早急に検討するということなんで楽しみにしたいと思いますし、県の糸魚川地域振興局で、今、関西方面の観光意識調査をやられて、訪問したいと思わない理由、「行きたい場所がない」、増加が41.8%。いかにPRが、まだ糸魚川で足りないかということも聞いておりますし、県の観光イメージが米とか酒、温泉、雪、スキー、魚だそうですね。訪問の目的は、「おいしいものを食べる」「温泉を楽しむ」「自然や景観を見て回る」ということで、それは50代以上が人気なんですけど、いろいろな形で観光を含めれば、この前の3市の合同の市議会議員の研修で、糸魚川が目指すべきは日本海と食だと言われておるんですが、その辺の本当の首都圏、関西圏も今含めて、どういう形で戦略プランを立てて、この糸魚川の経済活性化しようと考えておるんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

酒井産業部長。〔産業部長 酒井良尚君登壇〕

産業部長（酒井良尚君）

首都圏や関西圏に対する観光誘客の戦略プランということでございます。

糸魚川のやっぱり一番売りにしたいもの、また、ほかの地域とは違うものは何か、オンリーワンの部分をしっかりと打ち出していくということが、まず第1番でありますし、また、それについて関東なり、あるいは関西の皆さんが関心を持っていただく、注目をしていただくことが一番重要な足がかり、手がかりの部分だろうと思っております。

そういったことから、まず、ことしからもう進めておりますけれども、いわゆるマスコミとか、あるいはメディアとか、あるいはウェブといった、そういったツールを使っただけの宣伝活動、その中に、いかに糸魚川とは何か、糸魚川ってどういうところかっていうものを注目してもらうような、そういう仕掛けを組み込んでいくということからまず始めよう。ことしは、そういうところでスタートしておりますけれども、これからは関西方面も見据えた中で、よその地域とはどういうふうな違いがあるのか。そして、それを魅力に感じてもらうためにどうしたらいいのかというのを、まず見せ方という部分からしっかり出していこうと考えております。

それに加えまして、やはり来てみてがっかりということになっては、まさに逆の効果になってしまいますので、来てみてがっかりにならないような我々としての実力を上げていく、地域としての魅力をより高めていくという取り組みを、同時に進めていかなきゃならないというふうに考えております。これは戦略プランに基づく、ジオパークの戦略プロジェクトの取り組みのベースになる考え方でございますので、今後ともその考え方をより進めていけますように、取り組んでまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

それはジオパークの戦略プランの中にあっただんですが、ジオパークだけでなくいろんな形で、前回、越五の国ですか、5つの市、いわゆる糸魚川が入ってない。新聞記事に載ったんですが、それは市長がおっしゃられたみたいなんですが、この5つの中に入らないのは効果が見通せない、連携より存在感を磨くことが先決ということ、これは実際のことなんですか。いや、私は5市に入ったほうがいいんじゃないかと思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

いろんな連携がございます。そういう中で、やはり一体となってやらなくちゃならないものに対しては、参加をさせていただきたいと思っておりますし、ただ、先ほどの大阪のほうにおいても同じことなんですが、自分たちがその中で、どこまでそこを出していけるのかというところを考えたときに、今いろんな連携がございます。そういうことを考えたときには、やはり自分たちをしっかりと出せるというところが大事だろうと思うんですが、今のところは、ちょっと出せないなというような感覚がございますので、もしまたいろいろ流れの中において、参加して進めていけるといことになれば、入っても私はやぶさかでございます。ただ、今の段階では、ちょっと埋没してしまうのではないかなという感覚を持ったものですから、踏みとどまりました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

私はやっぱりTPPで例えではないんですけど、ぜひ、また参加して、だめならやめとけばいいと思うんで、やっぱりこの5市というのは佐渡も柏崎も含めて、いろいろな形で並行在来線、糸魚川市を関西方面から活用するとなれば、やっぱり糸魚川が起点になってもらわんとだめですし、泉田知事の方向は新上越とか言ってるんですが、やっぱり糸魚川をメインにするとなれば、関西方面からなれば、糸魚川を通して直江津、柏崎で、直江津で降りてもらって佐渡へ行く。私はやっぱりその辺が必要だと思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今の5市の連携、体系を見ますと、糸魚川が入り口ということに当然なるわけではありますが、し

かし、そこで糸魚川へ降りるかなと、やっぱり一番目は佐渡になるのでないかと。やっぱりそういうことを考えるわけでありまして、我々は今いろんな面で、いろんな連携をしなくちゃいけない部分でありますので、大切でもあると思いますが、ほかの面で連携をさせていただいている部分がございますので、そういったところでも出せるんでないかなと。今それに入らないから、全然やってないかという、そうではございません。今ほかの面で連携をさせていただいてるので、我々が入って、その目的がぼやけてしまう部分が私は感じられるので、やはりこの糸魚川市の一番大事なのは、特色のある個性をしっかりと出していくことが大事かなと思うわけでございますので、そういったところで、その辺を主体に進めさせていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

私は入ってもらいたいほうで、それを言うてればきりがいいんで。

そこで商工糸魚川、糸魚川商工会議所が出した糸魚川市のヒスイのイメージなどを商品造成に向けた調査ということで、糸魚川市への旅行経験。「旅行では行ったことがない」、これが57.1%、「糸魚川市を知らない」24.4%、「1回しか泊まったことない」10.2%、これを足すと91.7%、いかに糸魚川に旅行されてない。1回を除いても81.5%、私、これ本当だと思うんですわ。なかなかこんなアンケートないと思うんですが、やっぱり知られていないも含めて、まだ魅力を発信しきれないんじゃないかと。

それでもう1つの市観光資源の認知度、興味度、これを含めるとジオパーク、ブラック焼きそばは、ずっと下がるんですね。やっぱりそれを見ると、本当に知られているのがヒスイとベニズワイガニ、フォッサマグナ、アンコウ、大糸線。興味度が、ヒスイ、温泉郷、ベニズワイガニ、南蛮エビ、ヒスイ、ヒスイ海岸、まだまだ知られてないのがいっぱいあるんですが、ぜひ知っていただきたいと思っておりますし、その辺のやっぱり発信、PR、いかにすれば糸魚川が売れるか。売りがまだまだ足りんと思うんですが、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私もそのとおりに思っております。でありますから、今この北陸新幹線開業という1つのチャンスの中で、その辺を少し大きく出していきたいと思っております。

いろいろやってきておるわけでございます。いろんなもので取り上げてもらっていただいておりますが、まだまだ議員ご指摘のように、認知度というのは低いと捉えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

そこで観光を含めた中で、私はジオパークはすばらしいと思うんですわ。世界認定されて、ジオパークを含めた経済、1枚も2枚も重ねて行って、いろいろな形をやってもらいたい。ジオパークだけだと、まだ糸魚川の宣伝効果はないと思うんで、私はこの大地の芸術祭を含めて世界からアートを呼ぶ。駅前でもそうですし、空き家を利用して、これは前の2009年のなんですけど、世界各国から来てるんですよ。そのぐらいやってほしいし、今、文化財活用、文化財はいろいろありますね。その中で、今、活用計画が3月でつくられると。この辺も文化も含めて今度はスポーツ、教育委員会にありました美山球場や体育館や陸上競技場、いろいろな合宿誘致も含めた中で、全体を含めた中で、糸魚川の売りをどう出すか、その辺、どう考えてますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

議員ご指摘している点も同じだろうと思うわけですが、やはり我々が今進めていく中において、広くというのはなかなか難しいだろうと。そういう中で、マニアックなところから切り込んで行って、そして興味のある人を連れて来ないと、そしてまた口コミみたいな形で広げていかないと、難しいだろうと思っております。

今までの長い歴史の中において、観光をやってこなかったわけではございません。ずっと観光も我々は進めてきておったわけですが、なかなかいい評価につながってないというところを考えますと、やはりこれからは少し手法を変えた中で進めていかななくちゃいけないだろう。マニアックなやつをもっていく中で、糸魚川というものを知っていただいて、興味を持って来ていただける。それがないと、例えばよそと同じことをやっても、よそに取っていかれる。やっぱり先進地は、それなりのインパクトがあるわけでございますので、どうしてもややもしますと、そっちへ取っていかれる。我々はどういうふうに、それ以上のものを出していかななくちゃいけない、また、それと違ったものを出していかななくちゃいけないという、やっぱり工夫が大事だろうと思っております。

その辺が、私が今進めてまいっておりますジオパークでなかるうかと思うわけでありまして、それから広がりをもっていくという、そこにとどまるということではございません。

特に、ジオパークは多様性があるわけございまして、いろんな面にもつながっていったる部分を考えれば、決して地質や鉱物だけではございませんので、その辺はご理解いただきたい。人文資源とか、そういったところにも、食文化にもつながっていくわけでございますので、そういったところをやはり切り口にしていただいて進めていけばいいと思っておりますし、また、今そういうことでは、ジオパークで全国にネットができてるわけでありまして。そういうところを利用させていただいて、広がりを持つ中でお互いに連携をとって進めていくことが、まずもって、糸魚川というものの認知度を高めていくのではなかるうかと思ってる次第であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ジオパークもいいんです。ジオパークと何かプラスアルファ含めて、2つ、3つも重ねて、先ほど言った文化財活用計画も、本当にジオパークと相馬御風とかいろいろな形で出てますが、やっぱり文化財も必要ですし、そういうプラスアルファがあってこそ、ジオパークが生きてくると思うんです。

その辺で佐渡のやり方、今、すごい新聞紙上や、そこら辺でやってますよね。ここにいた若い局長時代の甲斐市長でございますが、顔も出るし、いろいろな形で出るんですが、日報に載ったんですが、アレックス・カー氏、この人が能舞台も含めて、スペイン料理と合体させてツアーを呼んだりとか、いろいろな形で東洋・日本文化研究者アレックス・カー氏。この人も全国各地で、いろいろな形で再生を図っているんですが、そういう人物。先ほど新保議員の中でありましたが、人が大事だと思うんですわ。外部から呼ぶか、本当に市職員でやっていただくか。市職員が育てばプロデューサーになって、コーディネートできればいいんですが、そういう方を含めてやっていただきたいと思うんですが、そういう外部コーディネートする人材を糸魚川市に呼んで、専門的にできないですかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

お答えします。

地域の振興なり地域づくりは、やはりその地域のオリジナリティー、つまり個性があっていいと思うんです。佐渡は佐渡のやり方があると思いますし、糸魚川は糸魚川のやり方があると思います。当面は一生懸命ジオパーク関連で。

それからもう1つ、ジオパークは多様性を秘めているというふうに、私どもは表現させていただいております。議員がおっしゃるとおり、文化、食、それから歴史、環境、景観を含めて、全てそのジオパークの多様性という中に含まれると思います。私どもが今展開させてもらっている事業も、全てそういうものとリンクさせていただきながら、それから市内のガイドを含めた現場の市民を、その中に登場させていただいております。非常に狭い範囲の評価ではありますけど、一定程度、好評を受けております。

もうしばらくの間、糸魚川を情報発信しながら、先ほどもお話がありました、まだまだ懸賞をかけたはがきをいただいても、糸魚川の「い」は、「魚」という字ではなくて井戸の「井」です、そのような実態です。この2年間、一生懸命やってきましたが。

今現在、FM東京のトップページに、一番上に糸魚川のパナーを張りつけてあります。1カ月ちょっと試験的にさせていただいておりますけど、そのような情報発信もさせていただいておりますので、糸魚川の知名度をしっかりと上げるべく活動を展開しながら、糸魚川の独自性なりオンリーワンをしっかりと示していくことが、いましばらく継続しなくてはいけないんじゃないかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

北陸新幹線の糸魚川駅開業記念事業実行委員会が、この2月28日に開催されて、平成26年からのデスティネーションキャンペーンも含めて、この実行委員会では、どう意見が出されておったのかも含めて、これから本当に2年後どうやりたいのか、その辺を含めてお考えがあったらお聞かせ願いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

お答えいたします。

デスティネーションキャンペーンに関しては、来年が本番になります。今現在この4月から、ブレイドCということで始まります。当市も3つ、4つプランを出させていただきました。

しかし、実態を申し上げますと、残念ながら圏域のレベルでは、東日本のJRしか出席しておりません。残念ながらこの糸魚川地域は、西日本のエリアとしてポケットになっております。結果的には、上越、妙高までの商品が一部開発されて、それも連携プランであります。上越新幹線を降りて、県内をめぐって、また上越新幹線で帰っていただくというようなプランです。一番近いところでは長野新幹線を利用して、長野圏域から新潟県へ入っていただいて、最終的には上越新幹線を利用して、また関東域に帰っていただくプランが主なものになっております。私どもが主張されても、うまいプランに商品として、なかなかのっていけないのが現実であります。

共通事項としては朝ご飯ということで、しっかり地元食材を提供しながら、コシヒカリを提供したり、あるいは食のほかに花、雪、それから酒、匠という技をしっかりとそこにアレンジしながら、各地域で頑張ってくださいということになっておりますけども、それも極めてデスティネーションキャンペーンを展開するには、県を含めた地方自治体と地域の関連観光団体、ないしは組織ということになっております。そういう意味では、市内の観光関連業者にも頑張ってください、連携しながら進めていく必要があると思いますので、オリジナルプランを西日本へ提供するとか、そういう手段で、今後展開していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

こちらは西日本なんで、ぜひその辺も含めて早急にやっていただきたいと思いますし、開業あと2年後ですね。本当に行政として、この開業2年後をどう考えて、どう捉えているのか、ちょっと見えてこないんですね。何かもう2年ではなく、あと2年あるという形が見えて、あんまりスピード感がないと思うんですが、どう考えておりますか。

北陸新幹線開業2年後ですよ、何かのぼり旗ぐらいだと1,000本ぐらい立てて、糸魚川へ来てください、そのぐらいやっぱりアピール、本当に日本一のアピールぐらいやっていただきたいと思うんですけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

我々は今までいろいろ長きにわたって、北陸新幹線の開業に向かって計画してきたわけでございます。合併のときにも、そういう声がありました。そのときから、もうカウントダウンすれば一番よかったんでしょうが、しかし、何をやるかというのが、なかなかわからない部分もあったわけでございます。

いろんな今事業に取り組んでいるのは、やはり1つの区切り、そういうことの中では交流人口拡大というの、やはりそれに向かってきたわけでございます。ジオパークのほうは、私はそのとおりだと思っております。今年度やってきた糸魚川駅100周年、大糸線55周年も、それに向かってやっております。プレという形の中で、進めていくということの中で、本格的に北陸新幹線開業に向けて、立ち上がろうと今進めてきたわけございまして、議員ご指摘ののぼり旗についても、今、発注しているところございまして、それに向けていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

何万本と言わないんですけど、やっぱり本当にどこにもないような、オンリーワンと言うとりまんですけど、本当にFM東京だけでなく、いろいろなメディアを使って、ただの本当の宣伝やってください。各マスメディアを使って、いろいろな形でやっていただきたいと思ひますし、新潟県が昨年3月に設置した新幹線活用地域活性化委員会、これある程度、中間報告を3回ばかりやられて、まとまってるんですが、この辺、ご存じですか。その辺に、どう対応していこうとしてますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

申しわけありませんが、その部分はちょっと把握しておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

新聞にも載ったし、ホームページを見ればわかるんですし、その中で新幹線活用地域活性化委員会、これはやっぱり県とタイアップして、糸魚川をどうするかというのは必要だと思うんですよ。

2次交通も含めて、関西圏をはじめ時間短縮、距離が短く、やっぱり関西が有利だとかいろいろな形で載っとるし、女性の起業家の育成も大切だと。その中にいろいろな形、活性化なんで、いろ

いろいろあるんですが、やっぱりその辺も含めてやっていただきたいと思うし、中京圏もやっぱり時短効果があるんで、名古屋と富山のフリーゲージまでいろんな形で、その話題にも載っておるみたいで、こっちのフリーゲージはどうしたんやと思うんですけど、名古屋から富山へフリーゲージがつけば、こっちはいつになるかわからんぐらいの状態になるんじゃないかと、こう思っておりますし。

その中にもやっぱりメディア・パブ、テレビ番組、スマートフォン、東京、関西で何々展とか、ジオパーク展ならジオパーク展でもやったりして、DVDも含めて映像で流せと言ってるんですよ。その辺で、いろいろな角度でマンネリ化を防ぐために順位をつけて、そういうのが必要だと言ってるんですが、やっぱりこの辺も含めて観光をアピールする、ジオパークをアピールするって、その辺、やっぱりタイアップが足りないんじゃないですか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

滝川交流観光課長。〔交流観光課長 滝川一夫君登壇〕

交流観光課長（滝川一夫君）

その点について、ちょっと回答させていただきます。

関東圏は、もちろん県と連携しながら商談会等随時、年に数回やらせていただいております。それから、私どもじかに旅行会社に乗りに行くことも非常に近年は多いです。

関西圏にあっては、ことし初めて、キャンペーンは京都駅、金沢駅、白山等でやらせてもらっておりますけども、ことし初めて、大阪地域で商談会をさせていただきました。そういう意味では非常に糸魚川のPRを含めて、キャラクターもあわせて登場させていただくような形で展開させてもらっております。

また、関西糸魚川会も、先般、市長のほうで参加していただきました。いろんなコネクションを使いながら、やはりPRをしていくべきだと思いますし、アウトドアでちょっと連携させてもらっている業者と、見本市等では糸魚川のコーナーを設けて、それぞれに啓発活動を行っております。全然してないわけじゃなくて、ことしから糸口を見つけて、できるだけ広い人たちと交流をさせていただきながら、糸魚川市の紹介、ないしは誘客に事業展開しているところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

追加させていただきますが、やはり我々は今までどちらかというと、関東、東京中心にやってまいりました。そういう中で、やはり中京圏域も非常に大切だということを感じたわけでございまして、ことし特に名古屋の新潟県人会の会長にお会いさせていただいて、またPRをさせていただきたい申し入れをさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひお願いしたいと思いますし、前の一般質問であった相馬御風と生誕130年、これも文化、

文化財を含めて開始されると。それで私、相馬御風とユーミン、松任谷由実をタイアップされて、「春よ来い」つながりで、いろいろな形でジオパークの公園でコンサートをやって、その中に民俗芸能も含めて音を演出した、マリンバ奏者の齊藤裕子さんとかいろいろな形で、そういうような形でいろいろな有名人を連れてきて、年4回でも、できないかもわかりませんが、県の行うDestinationキャンペーンですか、その中では、なんか上越は吉永小百合とか呼ばれるそうですが、糸魚川は違う藤原紀香とか福山雅治とか、そういう形で土佐関係、おまんつながり、いろいろな形で何かできないかなと、こう思っとるんですが。

それと漫画家を呼ばって、糸魚川出身の方もいらっしゃいますし、それは本当に石巻や境港の代表的なものでないですけど、二人ぐらいこの前の新聞に載ったその方々の漫画をどこかに飾るとか、そういうのはどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

これは全議員、また市民の皆様方が、もう恐らくそういう思いをしておられると思っとるわけですが、やはりもっとアピール度の、インパクトのある露出度の高い、やっぱり牽引力のあるそういったエンターテナーを使って、糸魚川を何とか売り出せよということなんだろうと思っとるわけでありまして、それについても検討していきたいと思っております。

そして今、御風を中心にとのお話をいただきました。私もそう考えております。本当に今、相馬御風という糸魚川での位置づけというのは、何か若い人たちや子どもたちには、少しなじみが薄くなってきたんじゃないかなというのを感じますので、この生誕130年を機に、市民の皆様方から、もう1回改めて相馬御風というのを知っていただくように取り組んでいきたいなと思っております。また、それを使って糸魚川を売り出す1つの、やはりポイントにもなるかなと思っとる次第でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひお願いしたいと思いますし、本当に先ほど言った十日町、大地の芸術祭を含めて。

もう1つ、香川県の直島ですか、これも島なんですけど、本当にアート、今、関西方面だけでなく全国から訪れてるそうです。それもアートで、いろいろな形で美術館、フォッサマグナミュージアムもありますし、いろいろな形で何かと結びつけて、絵画だけでなくアート、文化、その辺コラボレーションが、私は大切だなと思っておりますし、この前、先ほども出ましたが上越3市で、今、上越で謙信が一番有名なんで、それをバーチャルゲームをつくってもらってるんですけど、奴奈川姫つながりでバーチャルゲームとか、大国主も含めて、その辺も今、子どもや若い世代は、本当にバーチャルゲームで、いろいろな形でやると思うんで、その辺も含めてやっていただきたいなと、こう思っております。

それと今、2次交通が必要だということで、並行在来線も含めて新駅設置ですね。新駅設置を含めた中で、今、手を挙げている、これから対処していくっちゃんですが、その新駅はどんな状況ですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

新駅については会社のほうでも調査されておりますし、それから先日の特別委員会、それから市民説明会の中でも若干話題としてございました。

これについては、基本的には今のJRの時期ではなくて、新会社になったときに可能性のある、また利便性とか、そういう経済効果が上がるところについては、これは市と、それから会社の中で調整をして、図っていくという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

新会社設立してからですか。本間副市長の答弁だと、本来ならもっと詰める時期もある。それぞれの学校、地区からの要望があるので請願方式なんだ。それで新会社設立してから検討になるんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

新駅の整備については、JR西がやるという考えは今ございませんので、あくまでも新しい会社の立場の中で、市と会社、あるいは県を巻き込んだ中で設置をするという考えですので、新しい会社ができからということになります。

それで、そういう発言をしたということは、それぞれ地域の住民から新駅の要望が出てくるわけですので、そういう検討は今からせんきゃならんということでの話を、させてもらってるところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ今からでもいろいろな形で検討していただきたいと思っておりますし、北海道でやってるDMVも、私は候補に挙げていいんじゃないかと思っておりますし、それと駅から道と水陸両用ダックツアー、水陸両用の、長崎でやってるんですが、そういうのも含めて検討していただきたい。

やっぱり糸魚川に集めるって、何かをやらないことには私は来ないと思いますし、糸魚川を訪れんことにはジオパークもわかりませんし、いろいろな形でやっていただきたいと思うんですが、い

かがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

DMV、今言ったようにダックツアーですか、いろいろ水陸両用のやつなんかもご指摘いただいた。これも押しなべて特徴を出して、インパクトのあるものを設置して、誘客に努めよということなんだろうと思っております。

非常にそういった意味では経費と、それを見ながら何がいいのかというのを考えなくてはいけないと思っております。インパクトを出して、そしてやはり多くの方からおいでいただく、そういった市民の足だけでなく、そういったところも考えなくてはいけない点だろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひお願いしたいと思えますし、やっぱり今度は産業支援になると、先ほどもありましたように人だと思えます。人材育成、人材の「材」は財産の「財」、その人材育成、本当に人だと思えますわ。

先ほども飯田市の例もありましたし、富士市の産業支援センターとかいろいろな形で、それは委託された形で前も言わせてもらったんですが、そういう本当の産業支援にかかわる人材育成の場を、市の職員になればいいんか、商工会議所か、各銀行の方々がいいんか。私はやっぱり一本釣りだと思えます。その辺を含めて、人材育成をどう考えているのか、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

新保議員のご質問にもお答えさせていただきましたが、キーポイントは、そこでしっかりと頑張れるリーダーが、やはり一番大切だろうと思うわけであります。

役所であるのか、はたまた団体とか、また民間かというのは、これはどこでもいいわけでありまして、そういった有能なリーダーというのはやっぱり必要なんで、その辺を育てるか、いい人材を連れてくるかという、どちらかだろうと思うわけでございますので、いろんな事業をやっとるんですが、やっぱりその辺がしっかりしてれば非常に活性化する、また、この振興になるんだと思うわけでございますので、極力そういう人材探しは必要だろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

人材育成ではビジネスセンス、コミュニケーション能力、そして情熱、本当にこの三本柱がそろっとる人を、ぜひ育てていただきたいと。いなければ誘致していただきたいと、こう思っております。

それと次にいきますが、エネルギービジョン策定を25年度でやるということなんですが、それと同時に、25年度じゃ今、遅過ぎるような形なんですが、国も県も形的には今度は出てくるんで、その策定はやってもらわんなんですが、今動いてる地熱発電とかバイオマス発電の関係は、どうなってるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

地熱発電については、取り組みたいというような意向を持っている会社と、それとその会社等の設立も含めた中でということで、2社等の話を聞いております。ただ、それは実際にできるかどうかというのは、まだ今後の話でありまして、その辺については市も一応話を聞いてるという程度でございます。

それからバイオマス発電、これは商工農林でもことし補助しましたペレットの関係の工場ができますし、それについては市としてもペレットストーブについて、購入の補助を行いたいという考えを持っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

何か話を聞いていると受け身なんですよね。受け身でなく、やっぱり県がすごい、今の地熱発電では動いてきて、どんどんたきつけている形なんですが、市が横で聞いているだけ、それおかしいでないですか。やっぱり積極的に入っていただきたいと思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

本間副市長。〔副市長 本間政一君登壇〕

副市長（本間政一君）

今、課長が言いましたように、地熱を活用した発電はできないかということで、市内の民間企業が立ち上がっております。そのことから市としましても、これまでNEDOを通じまして市内で数カ所調査をしたわけでありまして、それらのデータをお示しをしたり、いろんな相談には乗っております。

ただ、なかなか難しい面がありますことから、あんまり表面に出ないというのが現状ですが、水面下ではいろいろな協議をしたり、あるいは県との仲介の中で、相談に乗ってるのが現状でありまして、民間の企業を立ち上げた方については、やっぱり事業化をしたいということでの会社を立ち

上げたというふうにお聞きをしておりますので、そのことは担当者のほうで相談を受けながら、随時、いろんな会議の報告はいただいておりますので、側面的には糸魚川の事業として成り立てれば、早くなっていただきたい。

それから県知事が松之山の発電のことを大変PRしてます。そのことを民間の企業の方にも話をされて、ぜひ糸魚川ということでの話の中で盛り上がったということを知っておりますので、そこから辺の情報交換をしっかりしながら相談に乗ったり、あるいはいろんな支援をしていきたいという考えで、今の段階では、そのような段階で今現状にあるというふうに認識をしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

やっぱり県とタイアップして、本当に職員と一緒に派遣するぐらい一緒に動いてくださいよ。やっぱり内々で、水面下で、先ほどありましたように問題が幾つかあるんですね。それを解決するためには、やっぱり地元の市が行かないと解決できない問題があると思うんで、そういう本当に最後のところを解決するのはやっぱり市長だと思いますし、あと職員に任せるなら任せる。その大事なところに今差しかかると聞いてはいるんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり私もこの自然を生かすということに関しては、当然であると思ってるわけでありまして、地の利をどのように使っていくかというのは、非常に我々が広い市を持つてる1つの大きなメリットであるわけですので使っていきたい。

しかし、いろんな課題、問題もあるわけでありまして。そういった面も聞いとるわけですので、1つのほうだけを見るわけじゃなくて、もう片方のところのやはり調査なり、また、いろいろ協議をするところも必要なわけございまして、一方だけでいっても最後はやっぱりつまずくわけでありまして、両方やはりうまくいかなくちゃいけない部分というところの中で、私も当然その中に加わって進めていきたいと思っております。結果的には、やはり新エネルギーなり地熱とか、いろいろある資源を生かしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひお願いしたいと思います。

県の今年度の予算の中で、バイオマス、小水力、雪冷熱、それに加え波の力、波力、潮力の海洋エネルギーも調査研究を行うと言っとるんですが、その辺も含めて策定事業の中に入ると思うんですが、今それで地中熱エネルギーを活用してイチゴの越後姫とか含めて、季節を変えているん

な形で収穫に向けてやるという促成栽培ですか、そういうのも含めてやるということでお聞きしてるんで、その辺も含めて早期に策定していただきたいと思います。

それで次、糸魚川ブランド認証制度、これもちょっとなりわいの中でやるような形ですが、今、上越も新発田も認証制度に向けて、この25年度ですか、やっていくそうなんです、やっぱりこの辺の確立も必要なんではないかと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

地域認証制については、いろんな認定基準をそれぞれお持ちの中で、やはりそれぞれの地域が持つ個性、それから他の地域との差別化、それから、それぞれの地域のらしさというものを、出していく必要があるというふうには思っております。

昨年から取り組んでおりますなりわいネットワークの中でも、うまくマッチングした例も出てきております。そういうものを、やはりどんどんふやしていく必要があるなと思っておりますけども、まだマッチングによって商品化された件数が少ないもんですから、なかなかうまくPRできてないとは思っておりますけども、なりわいネットワークのメンバーも、やはり首都圏だけでなく、関西圏のほうにも出向いて行ってもらっております。その中では参加者からは、農林水産業の展示会の視察は異業種からも非常に好評だったと、何か手応えがあったというふうにお聞きをしております。そのようなことで、また先進地を視察するだけでなく、やはりメンバーがその道中、いろんな意見交換をする中で、どんな考えを、また、どんな感想を持ったのかというのを、お互い情報を共有しながら、それを新たな展開に結びつけていく必要があるなと思っております。

それから、なりわいネットワークも会員メンバーの商品を、なりわいのほうでホームページを立ち上げることにしております。その中で、しっかりとまたPRをできるかなというふうを考えております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひなりわいも含めて、いろいろな形で成果品をどんどんどんどんつくっていただきたいと思っておりますし、45団体あるんですか、成果に結びついたのは一部ですよね。まだまだいろいろな形で、この企業だったらどこと結びついて、誰と結びつければ、大学はどこがいいとか、いろいろな形の専門家がいるとか、そういうやっぱり相談も含めて、いい指導、コーディネートをしていただきたいと思っておりますし、さっきの人材育成にもつながってくると思うんですが、そういう方々をやっぱりぜひ誘致するなり、育てていただきたいと思っております。

それと次、加工販売の関係で、12月の一般質問で保坂 悟議員からありましたが、今、小滝と上南地区ですか、いろいろな形で加工を含めてやってるんですが、今、地域づくりプランもやってるんですが、いろいろな形で。ただ住民の熱意だけで、それを待ってるだけでなく、市の職員もや

っぱり提案、情報を与えてやって、ここの地区ではこういうのがいいんじゃないか、こういう先進地があるとか、いろいろな形で情報提供をすべきではないかと思うんですが、その辺、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

そういう形になれば、その中で当然提示はしてると思いますし、また、先進地なんかへ視察にも行っております。これは小滝地区の例であります、そのようにやはり研究も当然してるわけでございますし、また、事業を取り組んだ後でもそういった研究は常日ごろやって、やはりいい商品を生み出すように地元の皆さん方も努力してまして、そういった情報を行政のほうでもある程度は、やはり入ったものは出すようにしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ気軽に、どここの会館や公民館なり、そういうのも使って利用できて、商品化すれば、ちょっとまずいんかもしれないですけど、その前段階までは、やっぱりそういういろいろな形でできるんじゃないかと思うんですが、ぜひその辺も研究していただきたいと思っております。

それと屋根雪の関係で、これ何で扶養親族をやられたか、どれだけの世帯が外れたのか、やっぱり皆さん困ってるみたいなんですが、その辺いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

屋根雪除雪の助成につきましては、平成23年度におきまして助成対象の世帯の要件といたしまして、世帯の前年収入が生活保護法の基準の1.5倍以下である世帯というふうに要件としてありました。これにつきましては世帯の人数であるとか、その方の年齢、そのことによっていろいろと計算が難しいというところで、あと、また普通の場合ですと、対象者を明確にする必要があるというご意見をいただきました。

その中で今回見直しをいたしまして市民税が非課税の世帯、それと、あと現行では子どもさん、親御さん、兄弟姉妹その他の親族から労力的、または金銭的に援助が得られない世帯というふうにしておりましたが、それだとなかなかはっきりとわかりにくいというご意見もいただきました。

その中で、ほかの世帯に属する人の地方税法に規定する扶養親族となっている人がいる世帯で、扶養してる世帯が、除雪当該年度の市民税が課税世帯の場合は除くというふうにさせていただいたところがございます。税上の扶養にされているということは、その親御さんなり、ご兄弟の方を面

倒を見ているということで判断をさせていただきました。

対象として、対象外になったということは昨年から比べまして、去年もことしも該当になる方が、死亡であったりとか、新規であったりとかということで入れかえはありますが、山間部で90世帯程度、該当から外させていただいております。しかしながら、新規の対象といたしましては88件の申請をいただいているところでございます。また、確認する際には、子どもさんが扶養していることを確認させていただいて、ご了解をいただいているところでございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

わかりました。

それで、この高齢者福祉のモデル化なんですけど、これも先ほども国保診療所も含めてタイアップして、都市部からモデル的に誘致して、糸魚川市としては金を出さないでいい方法が、モデル化でやってるところがあるんですね。その辺、情報ないんですか。その辺、ぜひやっていただきたいんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

モデル化してるところがあることは承知しておりますが、今の段階では情報が不足しているというふうに考えております。まず、情報を収集したいというふうに思っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（古畑浩一君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

その辺も含めて、やっぱり雇用も増大していただきたいし、介護保険が上がらないような施設、この前、言うておりましたサ付き住宅とか、前はサ高住と言うとったんですが、それも名前が変わりましたが、いろいろな形でできるところもあるかと思うんですが、いろいろな研究をしていただきたいと思いますし、ジオパークだけでなく、いろいろな形も今回やらせてもらいましたが、ぜひ前へ、スピード感を持ってやっていただきたいことを、終わります。

ありがとうございました。

議長（古畑浩一君）

以上で、五十嵐議員の一般質問が終了いたしました。

本日はこれにとどめ延会といたします。

大変ご苦労さまでございました。

+

午後 3 時 4 7 分 延会

地方自治法第 1 2 3 条第 2 項の規定により署名する。

議 長

議 員

議 員

+

+

+